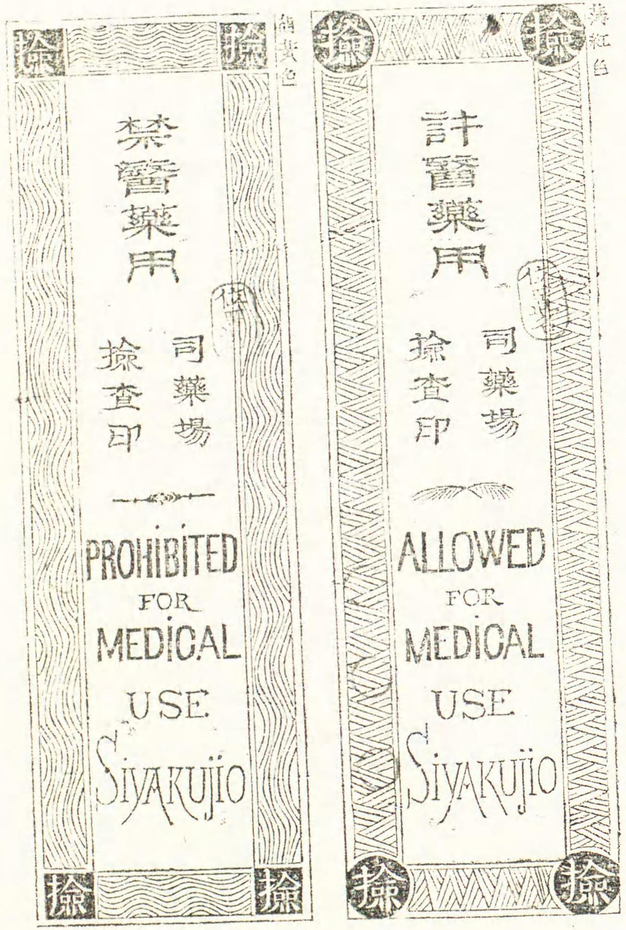
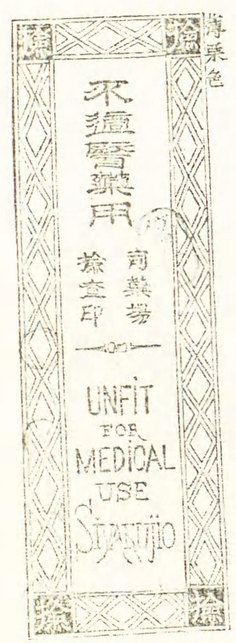
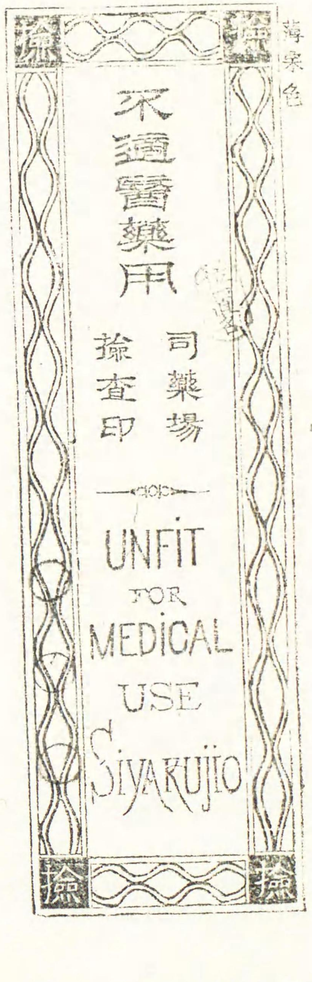
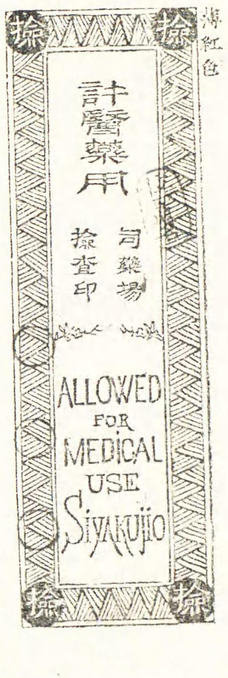


京都府布告書明治十年五月第百四十七號

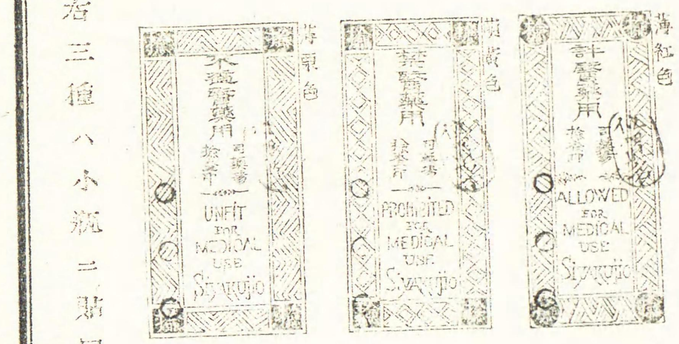


右三種八中瓶ニ貼用ス





右三種八大瓶ニ貼用ス



右三種ハ小瓶ニ貼用ス

右二種ハ瓶口ニ纏ヒ印紙剝離ノ患ナカラシム

第百四十八號
内務省衛生局報告　第四號
明治十年五月一日發行

明治七年中天然痘ノ大ニ流行シテ毒焔ヲ逞フセシヨリ以來今日ニ至ルマテ其餘焔未ダ消滅セス一二ノ地方ヨリ其流行ヲ報知セサルノ月ハナシ蓋シ本邦ニ於テ痘毒ヲ預防スルヤ夙ニ種痘ノ良法ヲ用ヒ之ニ由テ幾分ノ痘災ヲ免ルト雖モ其之ヲ撲滅スルノ方法ニ至テハ未タ悉サヽルモノ多シ抑痘毒ノ性タルヤヨク衣服手巾其他ノ器具ニ染着シテ久シク消滅スルコトナク假令一時其流行ヲ屏熄シテ患者ナキニ至ルモ殘毒冥々ニ潜伏シテ再ヒ傳

藥名	毒藥ノ記號
劇藥	劇藥ノ記號

藥名	劇藥

染ノ勢ヲ逞フスルニ宛モ枯木ノ春ニ遇テ茅ヲ發スルカ如シ然ルニ若シ一家ニ天然痘ヲ患フルモノアルヤハ世人唯其近ヅクヘカラサルヲ知テ未タ其本源タル毒茅ヲ撲滅スルニヲ知ラス猶ホ隣家ニ火ヲ失スル者アランニ其家財ヲ出スニヲ專ニシテ火ヲ撲滅スルニヲ力メサルニ同シ是レ種痘ノ方法ハ漸ク普洽ニ及フト雖モ尚ホ痘災ヲ免ルヽニ能ハサル所以ニシテ早晩必ス痘毒撲滅ノ方法ニ着手セサル可ラサルナリ歐米諸國ノ如キハ已ニ其撲滅法アリテ種痘法ト並ヒ行ハル是ヲ以テ預防撲滅兩ナカラ其功ヲ奏シ易シ今其中ニ就キ最簡易ナル者ヲ抄譯シテ各地ノ參考ニ供ス條中或ハ實施シカタキモノナキニ非スト雖モ其風土民俗ヲ斟酌シテ消毒ノ方法ヲ力メハ遂ニ天然痘預防ノ實効ヲ收ムルニ庶幾シ

痘毒撲滅法　米國紐育報告抄譯

第一條　痘瘡人の事

一若し天然痘を患ふるものあれバ一人毎ふ必ず見點の初日醫務取締或ハ區戸長ふ届け出つ可し

一痘瘡人ハ別室ふ居らしめ看病人と醫師との外其室ふ入ることを許さず況て病人の衣服ふ觸れ又ハ近寄ることを戒む可し（今く他人の出入を絶つことと能はさる者は時宜により衛生掛りの指圖により相當の病院に送ることあり）

一痘瘡人ハ妄りふ轉宅し又ハ病院ふ入ることを許さず

一假令ひ衛生掛の許可を得て病院ふ送るも衛生掛の定め置きたる乘物の外他の乘物を用ふることを禁ず

一痘瘡ハ快復期ふ至きて殊ふ傳染し易きものなれバ痘痂殘らず落ちて後身體を洗ひ一切衣服を着更るまでハ他人ハ勿論親族たりとも同居す可からず

第二條　痘瘡人ある家の事

一天然痘を患ふる者あれバ家内中未痘の小兒ハ速かふ種痘し又已ふ種病せしもの乜尚ほ再三種試むべし

一痘瘡人のある隣ハ其家の兒童をバ學校ふ入るゝことを許さず

一痘瘡人ある家ハ門戸を鎖し其旨を掲表して外人の來訪を斷るべし

第三條　痘瘡人ふ用ひたる物品の事

一痘瘡人の衣類ハ勿論其室ふ備へたる日用の道具ハすべて病毒ふ染みたるものと知るべし故ふ何れも皆左の淨除法を行ふまでハ持出し又ハそれを他人に用ふべからず

一病中着用したる衣類夜具ハ直ふ俛きて石炭酸水（水三升二合に粗製石炭酸三十瓦を加へたるもの）又ハ過滿俺酸剝篤亞期或ハ格魯兒加兒基四瓦を水三舛二合に溶したる藥水を交ぜたる水に漬け置き後熱湯を灌ぎ洗濯して屋根に出し或ハ室ふ曝け置きて乾かすべし但綿或ハ麻末なる品よりて汚れあるものハ燒き捨つるをよしとす

一痘瘡人ふ用ひたる膳椀皿鉢の類ハ石炭酸水ふ浸し能く洗ハざれバ他人に用ふべからず

一汚れある藁蒲團并ふ口鼻を拭ひある手巾布片紙屑の類ハ直ふ燒き捨つべし

一痘瘡人ハ便器ふハ稼て硫酸鐵（水三升二合ふ硫酸鐵少許を入れ置きて大小便の通利ごとふ直ふ取除くべし）

第四條　痘瘡人死歿の事

一痘瘡人の死骸ハ石炭酸水を以て沾しある清淨なる布にて包み二十四時の間ニ埋葬すべく知友の人或ハ婢僕ありとも死骸の周邊ニ近寄ることを戒しむべし

第五條病室の事

一痘瘡人の病室ハ病人を他ニ移し或ハ死去して空室となる時直ニ衞生掛の者出張して速かニ硫黄を以て薫ずべし

右報告之趣羌兼而追々相達置候規則共併而堅ク可相守此旨管内無洩相達者也

明治十年五月十七日

京都府知事槇村正直

甲第拾六號

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ大坂府下第一大區四小區今橋二丁目十四番地ニ設立シタル第十三國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利足ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印並ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事

明治十年五月十八日

右之通當有之候條管内無漏相達者也

明治十年五月二十二日

大藏卿大隈重信

京都府知事槇村正直

第四拾四號

明治四年六月十二日商人買賣品代金滞云々ノ布告并ニ同六年七月第貳百三拾九號布告自今相廢候條此旨布告候事

明治十年五月十八日

右之通被　仰出候條管内無漏相達者也

明治十年五月廿二日

右大臣岩倉具視

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年五月第百五十一號

第百五十一號

第四拾三號

神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルヽトキ若クハ金穀ヲ借入ルヽ爲メ社寺附地所（除税地ヲ建物什器又ハ寶物古文書類等ヲ除クノ外）ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事

明治十年五月十六日

右大臣岩倉具視

右之通被　仰出候條管内無漏相達者也

京都府知事槇村正直

明治十年五月廿二日

京都府布令書明治十年五月第百五十二號

第百五十二號

甲第十號

僧業相續候者其都度管轄廳へ可届出旨八年十二月第五拾三號ヲ以テ元教部省ヨリ及布達候處自今不レ及二届出一候條此旨布達候事

明治十年五月十六日

内務卿大久保利通代理

内務少輔前島 密

正誤

本年當省甲第五號達ニ記載候反別三町壹反三畝廿七歩ハ三町壹反三畝廿五歩八反三畝二歩ハ八反三畝拾壹歩ノ誤リ

右之通達有之候條管內無漏相達者也

明治十年五月廿五日

京都府知事槇村正直

第百五十三號

行在所布告第六號

內閣顧問從三位勳一等木戸孝允今日午前六時三十分薨去候條此旨布告候事

明治十年五月廿六日

太政大臣三條實美

右之通被仰出候條管內無漏相達者也

明治十年五月廿六日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年五月第百五十三號

甲第拾七號

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ東京府下第一大區拾小區木挽町七丁目六七八番地ニ設立シタル第十五國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ置キ貳拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利足ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但シ右紙幣ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ只表面銀行ノ名稱裏面銀行ノ割印頭取支配人名印ノ異ナルト右名印差ニ記錄頭ノ印ニ用ル肉色ノ殊別有之ノミニ付別段見本相添ヘサル事

京都府布令書明治十年五月第百五十四號

明治十年五月二十四日

大藏卿大隈重信

右之通達有之候條管内無漏相達者也

明治十年五月廿八日

京都府知事槇村正直

甲第十一號

博物館ヘ獻品及ヒ出品セントヲ願フモノハ左之通可相心得此旨布達候事

明治十年五月廿一日

内務卿大久保利通代理

内務少輔前島密

博物館ヘ獻品順序

一博物館ヘ物品獻納セントスルモノハ管轄廳ヲ經由シテ願出ベシ又時宜ニヨリ直ニ該館ヘ願出ルモ妨ケナシ總テ本人ノ便宜ニ任ス

但僻遠ノ地ニアリテ獻品セントスル志アリト雖モ海陸運搬ノ費用ニ乏シキモノハ其品名ト形狀トヲ詳記シ管轄廳又ハ博物局ヘ申立指揮ヲ乞フヘシ同

局ニ於テ未タ館中ニ充満無之品又ハ衆人ニ示シテ
稗益アルモノト認ル内ハ其願ヲ許シ舟車ノ費用ハ
総テ官ヨリ支給スルコトアルヘシ

博物館ヘ出品順序

一博物館ヘ私藏ノ諸品排列センコトヲ望ムトキハ願書等ヲ
製スルニ及バス直ニ該館ニ差出スヘシ該館於テハ之
ニ預リ證書ヲ付與ス返却ヲ乞フトキハ其證書ヲ持参ス
ルモノヘ返却スヘシ又時宜ニヨリ管轄廳ヲ經テ差出
スモ妨ケナシトス

但無二ノ物品ニシテ大ニ衆人ノ稗益トモナルヘキ
モノ又ハ官ヨリ其物品ヲ指シテ出品ヲ乞フモノハ
往返ノ運輸費ハ官ヨリ辨償スルコトアルヘシ

右之通達有之候條管内無漏相達者也

明治十年五月廿八日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年五月第百五十五號 二

第百五十六號

京都裁判所管轄區分事務取扱方條件追加中京都區裁判所ハ民事金額貳拾圓以下云々ト有之候處以來左之通リ更正候條此旨可相心得候事

一京都區裁判所ハ民事金額拾圓以下刑事懲役百日以下ノ事務ヲ受理裁決ス

明治十年五月廿九日

京都裁判所長代理
七等判事增戶武平

右之通管內無洩相達者也

明治十年五月三十日

京都府知事槇村正直

第百五十七號

新公債証書今明治十年上半年相當利金下渡候條証書所有ノ者ハ左之日割ニ基キ午前第八時當府廳ヘ爲受取可罷出事

一苗字頭字いろは四十七文字ヲ以テ區別

出頭日割

六月一日　イヨリ
六月二日　ホヨテ
六月四日　ヨマテ
六月五日　タマテ
六月六日　ムマテ
　　コウマテ
　　エヨリ
　　スマテ

一本人無據事故有之難罷出モノハ調印有之委任狀ヲ渡シ代人差出ス共苦シカラス　此用紙証券界紙ニ限ルヘシ

一利札切取前小札一畫毎ノ界ニ當ル裏面ニ証書所持主

代理委任ヲ受タル者ハ代理ノ印ヲ捺ス

通相心得不都合ナカルヘシ

一右ニ付照合ノ都合候條証書利札ヘ押印ノ者左記雛形ノ印鑑壹葉利金請取ノ當日差出スヘシ

品川西ノ内花之類

曲尺五寸

何京何區何町
郡何村
何某

印

一郡中居住ノ者ハ此布令到達次弟無遅々罷出ヘシ

右之通管内無洩相達者也

明治十年五月廿八日

京都府知事槇村正直

過般第百三十八號ヲ以相達候中學内英學校ニおゐて貸費生十名限り相募り候儀來ル七月中延期候條入學志願之者ハ同月迄學務課へ可願出候事

一英學校教則中普通科課程表第二年第一期第六級課目中習字筆算之二科ヲ增加ス

右之通管内へ相達者也

明治十年六月一日

京都府知事槇村正直

一家屋敷壹ヶ所

壹軒役

表口　三間

裏行　拾七間半

北隣　醒井通五條下ル東側　上田屋久七　當時木村久七

南隣　上田屋久助

一守屋元次郎

右之沽券狀壹通明治三午年當府廳捺印之上下附置候處久七儀發狂致シ執レヘ藏置候哉難相分旨屆出候付今般更ニ地券證下渡候條右舊券狀ヲ以取引致ス間敷候又何人ニ不限所持罷在候ヲ見聞候ハヽ速ニ當府又ハ最寄出張所へ可屆出此段管內無洩相達者也

明治十年六月二日

京都府知事槇村正直

甲第十二號

群馬縣下上野國新田郡久仁村ヲ佐位郡國定村ヘ新田郡田部村ヲ佐位郡間野村ヲ佐位郡間野谷村ヘ合併郡界ヲ更正候條此旨布達候事

明治十年五月三十日

内務卿大久保利通代理

内務少輔前島 密

右之通達有之候條管内無漏相達者也

明治十年六月五日

京都府知事槇村正直

第七號

明治六年七月當省第四號ヲ以テ及布達候開拓使管下北海道根室國納沙布崎燈標ノ儀今般左ノ通燈臺ニ改築シ去ル五月十五日ノ夜ヨリ點燈候條此旨更ニ布達候事

工部卿伊藤博文代理

工部大輔山尾庸三

明治十年六月一日

第三號

明治十年（西暦千八百七十七年）第

納沙布崎燈臺

一納沙布崎ノ燈標ヲ燈臺ニ改築シ第五等不動白色燈明ヲ設ケ去ル五月十五日（西暦千八百七十七年第五月十五日）ノ夜ヨリ點燈スル旨仍テ此燈標ハ前全夜ヨリ廢止シ而シテ燈標上ニ藏置セル

木製圓狀ノ籠モ取除キタリ

一納沙布崎燈臺ノ位置ハ北海道ノ極東ナル根室國納沙布崎ノ東端ナリ此地ハ英國海軍局第二千四百零五號ノ海圖ニ依レハ北緯四十三度二十三分ニシテ英國「グリーニッチ」ヨリ東經百四十五度四十八分ニ當ル

一燈臺ハ白色六角木製ニシテ基礎ヨリ燈籠ノ中央マデ高サ三丈五尺ナリ海面二百八十二度ヲ照輝シ一方ハ北七十四度三十分西又一方ハ南二十七度三十分西ノ方位ニテ蔽蔭ス但シ右ハ眞方位ナリ

一燈火ハ高サ海面ヨリ七丈四尺ニシテ其光線凡十里海里ニ達ス

一納沙布崎燈臺ヘハ毎年四月一日ヨリ十二月十五日迄ノ間點燈シ其餘ハ消燈ス

右之通達有之候條管內無漏相達者也

明治十年六月五日

京都府知事槇村正直

宮内省仕人八森能恒所持候京都同省御門鑑札第二百四十號壹枚鯨細工之細袋ニ入レ本月一日午後九時前八坂神社前ヨリ四條小橋迄之間ニテ遺失候旨届出候段同省ヨリ通知有之候間右鑑札拾ヒ取候者ハ當府又ハ最寄警察出張所ヘ早々可届出此段管内無洩相達者也

明治十年六月五日

京都府知事槇村正直

内務省衛生局雑誌第七號

明治十年五月二日發行

嬰兒養育牛乳分量概表

左ニ示ス牛乳分量概表ハ嬰兒養育ノ爲ニ普通供用スベキモノトス然レ𪜈該兒ノ強弱ニ因リテ其分量ニ多少ノ差異アリ猶ホ其體質ニ就キテ斟酌アルヘシ

小兒ノ齢	牛乳ノ分量	水ノ分量	糖ノ分量（乳糖或ハ白糖）
自二日至十日	五十五匁	百四十七匁五分	一匁四分二厘五毛
自十日至三十日	五十五匁	百四十匁	一匁二分五厘
二月	五十匁	百三十五匁	一匁四分二厘五毛
三月	七十匁	百三十匁	一匁二分五厘
四月	八十五匁	百二十五匁	一匁二分五厘

五月	九十	匁	百十二匁五分	一匁七厘五毛
六月	百	五	匁	百	五	匁	一匁七厘五毛
七月	百	五	匁	九十二匁五分	一匁七厘五毛
八月	百四十	匁	百	五	匁	一匁二分五厘
九月	百四十	匁	百	五	匁	一匁二分五厘
十月	百四十	匁	九十五	匁	一	匁
十一月	百四十	匁	九十五	匁	一	匁
十二月	百四十	匁	八十七匁五分	一	匁

右乳水練ノ三種ヲ合セテ一日ノ量トス

右之通報告有之候條爲心得管內無漏相達者也

明治十年六月七日

京都府知事槇村正直

行在所布告第七號

鹿兒島賊徒大分縣下へ散亂シ逃々四國地方へ遁走可致哉之間ヘモ有之ニ付テハ伊豫土佐海岸ハ豐後日向接近之地方ニ付今般別テ右沿海諸港出入之諸船於陸海軍嚴重致取締候條此旨布告候事

但右取締ニ付出入之船舶疑敷ト認ル時ハ軍艦ヨリ滯止ヲ命スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ臨機嚴重之處分ニ及フヘキ事

明治十年六月七日

太政大臣三條實美

右之通被　仰出候條管內無洩相達者也

明治十年六月八日

京都府知事槇村正直

來ル廿二日午前第九時舊大宮御所内博覽會場ニ於テ博覽賞牌授與式執行候條當日入場之者ハ右式縱覽差許候事

但雨天順延

一當日院參町通ニ於テ出シ店并興行物等勝手次第之事

但當日院參町通ニ於テ出シ店興行物ハ借地料府税差許候事

右之通管内無洩相達ヘシ也

明治十年六月十六日

京都府知事槇村正直

開ノ第千四百六十八號

郵便取扱役

外國ヘ差出ス郵便物之表記等ハ本年郵便規則第九十八節第百三節ニ於テ明示有之義ニ候得共差出人於テ右規則ニ負キ差出候向キ從々有之ニ付テハ今般左之通リ新聞紙ヲ以テ一般ヘ公告オヨビ候條爾後表記其他切手貼付方等不都合之信書差出候向キ有之節ハ右公告面之手續ヲ差出人ヘ詳細申聞ケ爲取直受付候樣可致此旨相達候事

明治十年五月

驛遞局長

内務少輔前島　密

新聞公告文

外國エ差出ス郵便物之表記方心得

一信書表面ニハ必ラズ横文ヲ用ヒ左ノ雛形ノ通リ受取人ノ住所姓名ヲ書記スヘシ差出人ノ住所姓名ヲ書スルヲ無用トス

一表面ニ横文ヲ用ヒス國字ヲ用フルモハ外國ニ至リテ全ク不通ナルヲ以テ沒書トナルノ患アリ故ニ必ラズ横文ヲ用フルヲ則トスヘシ

一表記横文ノ外其譯文ノ國字ヲ細書スルモ妨ケ無シト雖國名ハ(佛)英(佛)等ノ文字ヲ用ヒス國ノ郵送中ノ標目トシテ例ヘハ英國ニ送ルヘキモノハ單ニ英ト書スルヲ本則トス且裏面ハ何等ノ文字ヲモ書ス

一紙面ハ縦ニ認メ封面ハ白多キヲ宜トス何トナレハ米國往復ノ例ヘハ一箇ノ日附印ヲ捺シ而シテ横濱ニ桑港ニ幷盛頓ニ各一封ノ日ヲ捺スルノ紙幅ヲ必用トスルニ由リ故ニ無用ノ文字ヲ書シテ全白ヲ塞クヘカラス

一明手貼付ノ如キモ左ノ雛形ノ通リ表面右方ノ上角ニ限ルヘシ然ルキハ信書ノ達スル地ヲ見テ郵稅ノ多寡ヲ檢閲スルニ便ニシテ体裁ノ宜シキヲ得ルヲ一目ニ檢閲スルニ便ニシテ体裁ノ宜シキヲ得ルヲ故ニ決シテ裏面ニ貼付スヘカラス

右公告候事

明治十年五月

乙第六號

明治九年一月乙第三號ヲ以テ非常ノ勞費ヲ掛ケ開墾シ宅地處分ノ儀相達置候處左之通更正增加候條此旨相達候事

府縣

明治十年五月八日

地租改正事務局總裁大久保利通代理

同局二等出仕松方正義

京都府布告第百六十七號

乙第六號

明治九年一月乙第三號ヲ以テ非常ノ勞費ヲ掛ケ開墾シ宅地處分ノ儀相達置候處左之通更正增加候條此旨相達候事

明治十年五月八日

大藏卿大隈重信代理

大藏大輔松方正義

第一條

地租改正後民有山野ノ巉岨巌石等ヲ整平シ或ハ池沼ノ類ヲ埋堆シ其素地ノ全體ヲ變換シテ宅地トナシ非常ノ勞費アルモノハ費力ノ澁渋ヲ審査シ相當年季ヲ定メ年季中素地ノ地價ニ據リ收稅シ其他河海湖水等ヲ無代下與シ之ヲ埋堆シテ宅地トナスモノハ相當免稅年季ヲ附與スヘキモノトス

但年季ハ伺ヲ經テ定ムヘシ

第二條

地租改正後民有ノ田畑及ヒ山野ヲ宅地トナスモノハ改正地價據置期限年度中ハ素地ノ稱ニ據ヘ置ヘシ

第三條

民有ノ山野池沼等耕地ニ開墾ノ許可ヲ得テ鍬下年季中其持主ノ便宜ニヨリ宅地トナスモノモ年季中ハ耕地ト一般鍬下地ニ據ヘ置ヘシ

第四條

荒地免稅年季中宅地トナリタル翌年ヨリ該宅地相當ノ地價ヲ定メ課稅スヘシ

但池沼成沼等ノ荒地ヲ埋堆シ宅地トナスガ如キ非常ノ勞費アルモノハ伺ヲ經テ其年季中免稅ニ據置ヘキモノトス

右之通達有之候條管內無漏相達者也

明治十年六月十八日

京都府知事槇村正直

甲第三號

府縣

當省下士以下兵役満期ノ者詮議ノ次第有之當分ノ内解役差止メ候條爲心得此旨布達候事

明治十年六月十三日

海軍大輔川村純義代理
海軍少將中牟田倉之助

右之通達有之候條管内無洩相達者也

明治十年六月十八日

京都府知事槇村正直

鉛彈藥賣買ノ儀兼テ嚴重取締被仰出候處鉛ノ儀ハ漁網必用ノ品ニ付右警察ニ指問候哉モ難計就テハ漁猟ノ鉛賣買致候者ハ實際入用ノ分量願出サセ其始末添書ヲ以買求ムヘキ地方ノ管廳ヘ差出サセ賣買候儀ハ被差許候旨御達相成候ニ付自然右警察ニ付買求度者ハ當府又ハ最寄支廳ヘ詳細願書可差出此旨管内無漏相達者也

明治十年六月廿一日

京都府知事槇村正直

第百七十號一千十一、二

第四十五號

今般萬國郵便聯合條約（あの）へ（とりきめめの）連盟相成候ニ付別冊相添此旨布告候事

明治十年六月十九日

右大臣岩倉具視

右之通被　仰出候條管內無洩相達者也

明治十年六月廿五日

京都府知事槇村正直

萬國郵便聯合條約

京都府布令書明治十年六月第百七十號

千八百七十四年即チ明治七年十月九日瑞西國ベルン府ニ於テ締結セル萬國郵便聯合條約ヲ下ニ記名スル各國政府ノ全權公使ハ衆員ノ協議ニヨリ更ニ批准ヲ得ヘキモノトシテ左ノ條約ヲ修整セリ

第一條

締盟ノ諸國ハ各々其郵便局ノ間ニ郵便物ヲ交換センカ爲メ萬國郵便聯合ノ名義ヲ以テ單一ノ郵遞邦疆ヲ畫スヘシ

第二條

此條約ニ遵テ交換スヘキモノハ聯合ノ諸國ヨリ發シ聯合ノ諸國ニ遞送スヘキ信書端書書籍新聞紙諸般ノ印刷物其他商品ノ見本公用及ヒ商用上ノ書類トス

又聯合ノ諸國ト聯合外ノ諸國ノ間ニ前節記載ノ郵便物ヲ交換スルコトアルヘシ但シ此交換ハ少ナクモ二個以上聯合ノ州郡ヲ要スルヤニ限ルヘシ

第三條

聯合疆内ニ於テ佛ハシムヘキ郵便稅ハ前佛ニテ信書一通廿五センチム一厘九毛ニ當ル我カ凡ソト定ム可シ然レ共通貨其他計算上ノ異同ヲ調理セン爲メ右定稅ヲ多少增減スルハ各國其自由ニ任スヘシ尤モ此增減ハ三十五センチムヨリ過超セサルヘク廿センチムヨリ減少セサルヘシ

重量十五グラム ニ過キサル信書ハ一通トナスヘシ故ニ此重量ニ超ル信書ハ毎十五グラム若シクハ其分數毎ニ一通ツヽノ定稅ヲ佛ハシムヘシ

前佛セサル信書ハ其屆先ノ國ニ於テ二倍稅ヲ佛ハシムヘシ郵便端書ハ前佛ズルヲ以テ定則トス尤モ其稅額ハ前佛信書定稅ノ半減タルヘシ若シ其稅額ニ分數ヲ生スルカ如キハ之ヲ全數ニ充テヘシ

聯合ノ强内ニ於テ海運ノ路程三百海里以上ニ及フモノハ通常稅ノ外更ニ增稅ヲ佛ハシム此增稅ハ聯合疆内ニ於テ前佛信書定稅ノ半額ニ超ユヘカラス

第四條

公券及ヒ商用上ノ書類商品ノ見本新聞紙假綴又ハ本綴ノ書籍雜誌樂譜名刺書名錄大意報告書又ハ廣告書類ハ活版木板ニ拘ハラス石版筆書寫眞ヲ問ハス聯合全國ヲ通シテ一箇七センチムツヽノ定稅ヲ佛ハシムヘシ然レトモ通貨其他計算上ノ差同ヲ調理セン爲メ

右定税ヲ多少増減スルハ各國其自由ニ任スヘシ尤モ此増減ハ十一セントチムヨリ低減セサル可シ重量五十グラムニ過キサルモノヲ以テ一箇トナス又重量ニ超ルモノハ五十グラム毎ニ若シクハ其分數毎ニ一箇ノ定税ヲ拂ハシムヘシ

隣合彊内ニ於テ海運ノ路程三百海里以上ニ及フモノハ通常税ノ外更ニ増税ヲ拂ハシムヘシ

但シ此増税ハ隣合彊内ニ於テ此種ノ郵便物ヨリ拂ハシムヘキ定税ノ半額ニ過クヘカラス

此種ノ郵便物ノ最大重量ハ商品見本類ヲ二百五十グラム其他ノ郵便物ハ總テ一千グラムト制限スヘシ

聯合ノ各國政府ハ其國ノ政令法度ニ矛盾シテ發行セル此種ノ郵便物ヲ其國境ヲ通シテ遞送配達セサルノ權利ヲ有スヘシ

第五條

第二條ニ記載シタル郵便物ハ書留ヲ以テ遞送スルヲ得ヘシ

各書留ノ郵便物ハ前拂セサルヘカラス

前拂ハ書留郵便物又ハ書留ニアラサル郵便物モ同様タルヘシ

書留手數料及ヒ書留ヲ領受シタル報知ノ手數料ハ之ヲ發出スル國ノ内地郵便成規ニ遵テ取立可キ金額ニ過クヘカラス

非常變災ヲ除クノ外其他ノ原因ニヨリ書留郵便物ヲ毀失スルトキハ毀失ヲ證セサル地ノ郵便局又ハ其海運

ヲ取扱タル局ヨリ五十フランクヲ其差出人又ハ差出人ノ望ミニヨリ受取人ヘ拂フヘシ尤モ國法ニヨリ書留郵便物ノ紛失ニアラスシテ此郵便局ハ此限ニアラス

此償金ハ成丈ケ遲滯ナク拂フヘシ若シ遲滯スルモ其請求ヲ促シタル日ヨリ一ケ年ヲ過クヘカラス

請求ヲ促カスノ時限ハ最初其書留ヲ差出シタル時ヨリ一ケ年ノ中ニ促カスヘシ此期ヲ過クレハ其請求ヲ訴ルヲ得ス

第六條

各種郵便物ノ前拂ハ之ヲ發出スル國ニ於テ發行セル郵便切手又ハ郵便封皮ヲ以テスヘシ

前拂セサル又ハ不充分ニ前拂シタル新聞紙又ハ其他ノ出板物ハ之ヲ遞送スヘカラス尤モ其他ノ郵便物ハ前拂セサルモ不充分ニ前拂セルモ總テ前拂セサル信書ト見做シテ之ヲ遞送シ信書定稅ノ二倍ヲ取立ヘシ但シ郵便封皮或ハ切手ヲ以テ多少ノ稅ヲ拂ヘルモノハ之ヲ引去リ右倍稅ニ算入スヘシ

第七條

聯合疆内ニ於テハ郵便物ヲ再達ノ爲メ何等ノ增稅ヲ取立ヘカラス

然レトモ聯合ノ一國内ニ發シタル其内地遞送ノ郵便物ヲ再達ノ爲メ聯合ノ他國ヘ其内地遞送トシテ差立ツルキハ其届先ノ郵便局ニ於テ其内地遞送ノ稅ヲ增加スヘシ

第八條

郵便事務ニ關シタル公用信書ハ都テ無稅ニテ遞送スヘシ尤モ右公用信書ノ外ハ無稅又ハ減稅遞送ヲ許サス

第九條

既ニ記載シタル第三第四第五第六第七條ニ依テ領受セル金額ハ各局ノ所得トシテ之ヲ取ムル可シ故ニ聯合ノ各郵便局ハ互ニ計算ヲ保ツニ及ハス

信書其他ノ郵便物ハ前數條ニ記載スル如ク當然拂ハシムヘキ稅額ノ外發出地又ハ到着地ヲ問ハス差出人或ハ請取人ヨリ何等ノ稅ヲモ取立ヘカラス

第十條

聯合ノ疆內ヲ通シテ繼越郵便ヲ往復スルハ正ニ其自由ヲ保證スヘシ故ニ聯合ノ各郵便局ハ其時ノ都合ト事務ノ緩急ニ依リ閉囊又ハ開囊ヲ以テ其媒介國ヲ通シ又ニ繼越物ヲ遞送交換スルハ全ク其自由ニ任スヘシ

閉囊又ハ開囊ハ其郵便局ノ任意ヲ以テ最モ遠違スヘキ線路ヘ向ケ之ヲ遞送スヘシ若シ數條ノ線路均シク速達シ得ヘキカ如キハ其差立局ニ於テ其最モ速達レ得ヘキ線路ヲ撰定スルノ權理ヲ有セリ

信書其他ノ郵便物ノ數多ニシテ繼越局ノ手數ヲ煩ハスニ足ルモノヽ如キハ閉囊ニ仕立ルヲ以テ通例トス但差立ノ郵便局ハ其因故ヲ告知スヘシ

差立局ハ其繼越局ニ對シテ閉囊又ハ開囊ニ拘ハラス信書ハ正量キログラムニ付二フラン第四條ニ揭載セル郵便物ハ正量キログラムニ付二十五センチムッ

ヲ勤トムヘシ

海運ノ事業ヲ維持スル郵便局ハ信書ハ正量キログラムニ付六フランク五十センチム第四條ノ郵便物ハ正量キログラムニ付五十センチムヲ過キサル金額ヲ其差立局ヨリ要請スルヲ得ヘシ

此海運ノ費用ハ前節記載ノ金額ヨリ決シテ多カラサルヘシ故ニ現費ヨリ多キ金額ヲ海路運送ノ費用トシテ拂フヘカラス

閉鑿又ハ開鑿ニ拘ハラス繼越郵便物ノ重量ヲ整調セン爲メ双方ノ協議ヲ以テ其勅定期限ヲ約シ曾テ二週間遞送セシモノヽ計算ヲナスヘシ此計算ハ他日精覧仕上ケヲ爲ス迄双方ノ郵便局ニ於テ計算ノ根基トナスヘシ各局夫々精算仕上ケヲ督促スルヲ得ヘシ

、手數料トシテ拂フヘシ

一ノ媒介局ヲ通シテ繼越スヘキ郵便物ノ重量七百五十キログラム以上ニ至ルヤハ此手數料ヲ增加シテ信書ハ四フランク第四條ノ郵便物ハ五十センチムトナスヘシ

然ル繼越郵便ノ爲メ是迄現ニ手數料ヲ取立サルカ或ハ下低ノ課金ヲ收入シ來タル場合ニ於テハ從前ノ額合ニ遵フ可ハ勿論ノコトトス

聯合ノ疆内ニ於テ路程三百海里以上ヲ通シ繼越物ヲ海運スルヤハ其海運ノ取扱ヲナセル若シクハ其事業ヲ繼持スル郵便局ハ其海運ニ關スル費用ヲ領受スルノ權理ヲ有スヘシ

聯合ノ各局ハ此海運ニ屬スル費用ノ成丈ケ減少セン

第一　繼越物ノ遞送方法ニ於テ必要ナル變更ヲナセシ場合ニ於テ

第二　最前計算ヲ爲シタル日ヨリ一ケ年ノ期限ノ過キ去ルニ於テ

本條ノ諸節目ハ即チ郵便又ハ紐約桑港間ノ鉄道ニ依リ合衆國ヲ横截シテ到着セルモノニ其効力ヲ及ボサヽルモノトス斯ノ如キ便郵事務ハ其相關渉セル郵便局ノ間ニ取極メタル一種ノ約條トシテ其取扱ヲ續ケヘシ

第十一條

聯合ノ諸國ト聯合外ノ諸國ノ間ノ約束ハ即今存在スル又ハ將來締結スヘキ一種ノ條約ニ依テ之ヲ整理スヘシ

聯合國外ニ遞送スヘキ郵税ハ前節一種ノ條約ニ依テ之ヲ定ム可シ此場合ニ於テハ聯合内ノ定税ニ右ノ税額ヲ加フヘシ

第九條ノ節目ニ從テ聯合内ノ定税ヲ左ノ如ク割合フヘシ

第一　聯合ノ差立局ハ他ノ外國ヘ差立タル前掛郵便物ヨリ其聯合内定税ノ全額ヲ收領ノ特ヘシ

第二　他ノ外國ヨリ發セシ前掛ケサル郵便物ヲ受取タル局ハ其聯合内ノ郵便局ヘ其聯合内定税ノ全額ヲ收領ノ特ヘシ

第三　他ノ外國ト聯合内ノ郵便局ハ其外國ヨリ到着セル前掛ノ郵便物及ヒ其

外國ヘ差立タル前拂セサル郵便物ヨリ其歸
合内定稅ノ全額ヲ收領シ得ヘシ

第一第二第三項ニ記載セル場合ニ於テ外國ト郵便物
ヲ交換スル局ハ繼越ノ爲メ何等ノ勘定ヲ要求スルヲ
得ス繼レトモ其他ノ場合ニ於テハ總テ第十條ノ箇條
ニ遵テ繼越ノ爲勘定ヲ求ムルヲ得ヘシ

第十二條

價額公記ノ書狀及ヒ郵便爲替証書ノ交換ハ聯合ノ數
國若シクハ其聯國ノ間ニ特別ノ約條ヲ以テ之ヲ定ム
可シ

第十三條

聯合各國ノ郵便局ハ此條約ヲ實施セシ爲メ協同合議
ヲ以テ必要ナル細目及ヒ順序ヲ規畫シ以テ細目規則
ヲ定ム可シ

此細目規則ノ條欵ハ協同合議ヲ以テ尚ホ之ヲ變更シ
得ヘキハ勿論タルヘシ

第十四條

總テ聯合ニ干渉セサル事件例ヘハ分界地ノ交換方法
近國ヲ通シテ低稅逓送ノ區域ヲ定メ郵便爲替証書及
ヒ價額公記書狀等ノ交換方法ヲ定ムルカ如キハ各局
ニ於テ夫々適切ノ處分ヲナスヘシ

第十五條

此條約ノ諸條欵ハ各國内地ノ郵便成規ヲ變更スルノ
勢力ナキモノトス且郵便事務ヲシテ一層簡便ナラシ
ムルノ目的ヲ以テ數國相聯結シ或ハ締盟スルノ自由
ヲ束縛スルヿナシ

京都府布令書明治十年六月第百七十號　〇八

萬國郵便聯合總理局ノ名義ヲ以テ一ノ中央局ヲ置キ各同ヲ以テ擔擧シタル一ノ郵便全權ヲシテ之ヲ精當監檢セシム可シ其諸費ノ如キハ聯合各國ヨリ之ヲ給スル可シ

此總理局ノ主務ハ萬國郵便事務ニ關渉セル各般ノ報知ヲ拾取シ之ヲ頒布スヘシ且若シ聯合ノ兩國異議ヲ生スルカ如キハ其告發ヲ得テ之カ說明ヲ附スヘク細目規則ヲ變更スルニ臨ンテ先ツ其問題ヲ觸知スヘク一般ニ係ル計算ヲ簡易ナラシムル可ク殊ニ第十條ノ出納ヲ詳明ナラシム可シ總テ聯合全國ニ關スル利害ヲ攻察シ宜ニ隨テ之ヲ裁理スヘシ

第十六條

此條約ノ意味ヲ說解スルニ係リ聯合內ノ二局以上異論ヲ生シタル各局ハ此ヲ論ヲ講スルヤ中裁判ニ依テ之ヲ斷決スヘシ故ニ異

論ヲ講スルヤ中ハ中裁判ニ依テ之ヲ斷決スヘシ故ニ異論ヲ生シタル各局ハ此事ニ關係ナキ聯合內ノ他局ヲ倘シテ之ニ當ラシム可レ

此斷決ハ中裁判員ノ多數ヲ以テ定ム可シ若シ同數ニ分スルカ如キハ此中裁判員タル者濟シク此事ニ關係ナキ他局ヲ推シテ更ニ其數ヲナサシム可シ

第十七條

海外ノ諸國新タニ此聯合ニ加入セント要セハ左ノ順序ニ照準スヘシ

第一　聯合ニ加入セント欲スルノ國ハ萬國郵便聯合總理局ノ事務ヲ主理スル全權ニ之ヲ請願スヘシ

第二　聯合ニ加入セント要セハ聯合條約ノ諸節目

ヲ履行セサルヘカラス尤モ海路遮送ノ輕費ノ如キハ別種ノ協議ニ遵フヘシ

第三　聯合ニ加入セントセハ先ツ郵便交換條約既ニ整國ノ全權即チ直接ノ關係ヲ有スル國ノ全權ノ間ニ於テ協議ヲ得ンコトヲ要ス

第四　此協議ヲ遂ンカ爲メ萬國郵便聯合總理局ヲ主理セル全權ハ若シ機會ヲ得ハ紹介スル全權ヲ希望スル全權ノ會議ヲ命スヘシ

第五　此協議ニ參與スルトキハ萬國郵便聯合總理局ヲ主理セル全權ヨリ之ヲ聯合ノ諸國ニ報知スヘシ

第六　之ヲ報知スルノ日ヨリ竟シテ六週間ノ中ニ故障ヲ發スルモノナキトキハ其加入ヲ許可セシモノト看做シ主理ノ全權ヨリ加入ノ全權ニ其事ヲ報知スヘシ然ル後其主理スル全權ノ政府ト其加入セル全權ノ政府トヲ以テ其加入ヲ確實ナラシムル可シ

第十八條

此條約ニ加ハル各國全權会使ハ少ナクモ毎三ケ年ニ於テ會同シ以テ聯合ノ方法ヲ完全ニシ以テ緊要ノ整正ヲ加ヘ以テ一般ノ得失ヲ論定スヘシ

發擇ノ權理ハ各國各々一トス

各國一員若シクハ數員ヲ出シテ代理セシムルモ或ハ他國ノ委員ヲシテ其代理ヲ兼子シムルモ妨ケアルコトナシ

然レトモ一國ノ委員ハ其自國ヲ併セテ二ケ國ヲ限リ

代理スルヲ得ヘキハ勿論タルヘシ

次後ノ會同ハ千八百七十七年佛國巴黎府ニ於テ之ヲ開クヘシ然レトモ少ナクモ聯合國ノ三分一ノモノヨリ其期ヲ急促スルヤハ之ヲ縮スヘシ

第十九條

此條約ハ千八百七十五年即チ明治八年第十月一日ヨリ施行スヘシ但シ施行ノ期限ハ當日ヨリ三ケ年ト定ムヘシ

滿三ケ年後ニ至ルモ時ホ此期ヲ伸長スルヲ得ヘシ然レトモ聯合ヲ脫セントスルノ各國ハ一ケ年前ノ報告ヲ以テ退去スルノ自由ヲ有スヘシ

第二十條

此條約實施ノ日ヨリ是迄各國及ヒ各局ノ間ニ取結タル別種ノ條約中此條約ノ箇條ニ抵觸スルモノ及ヒ第十四條ノ箇目ヲ妨害セサルモノハ總テ廢止スヘシ

此條約ハ成丈ケ速カニ批准ヲ要スヘシ其最モ遲延ニ至ルモ實施前三ケ年ヲ出ヘカラス但シ批准ノ交換ハベルン府ニ於テ執行フヘシ下ニ揭ケタル各國政府ノ全權公使ハ此條約ヲ證センカ爲メ千八百七十四年即チ明治七年第十月九日ベルン府ニ於テ手書記名スルモノ也

各國政府ノ全權公使手記記名ハ畧之

第四拾六號

萬國郵便聯合條約相成候ニ付テハ同條約ノ條款ニ遵ヒ本月二十日ヨリ外國郵便税別表ノ通改正候條此旨布告候事

明治十年六月十九日

右大臣岩倉具視

右之通被　仰出候條管内無洩相達者也

明治十年六月廿五日

京都府知事槇村正直

信書	六	四	五	二	四	四	六
本書							
書籍							

信書ハ先拂信書稅ノ中ヨリ現ニ拂ヒタル切手ノ

本書籍等ハ都合ニ依リ差立ルコトアルベシ此場合

	一	一	四	二	五	一	六

（一）信書ノミ屆先マデ前拂スルコトヲ得ベシ

（二）前拂ハ着船ノ港マデ

（書留ノ規則ハ聯約各國ト同樣先拂不足稅ノ郵便物ハ其郵稅或ハ不足ノ二倍ヲ拂ハシム

（書留信書ハ壹通分ニ付郵稅四十四錢

（二）前拂ハ着船ノ港マデ

明治十年月第四拾六號布告改正

外國郵便税表

萬國郵便聯約國名

歐羅巴全大陸
アデン
アルヂリヤ
アゾールアイランヅ
バグダット
バレーリックアイランヅ
バタビヤ
ベルミユダ
ボルチオ
ブールボン即チレウニオン
ブラヂル（七月一日ヨリ）
ブリチッシギアナ
バンデルアバー
ビュッシーア

ブッソーラ
カナリーアイランヅ
ケープヴェルドアイランヅ（七月一日ヨリ）
カエンス
カブール
カシミーア
シウタ
セイロン
コルシカ
シャンデルナゴール
キュバ
キラソア
デシテダ
ヂュルファ

ダッチギアナ
イヂプト
ファローアイランヅ
フェルナンドポー
佛國殖民地
フレンチギアナ
ガブーン
ゴードロープ
ゴア
ガヂュア
香港及ビ屬局
アイスランド
印度
イスパハン

日本
ヂアメーカ
ヂマバ
カリカル
ラブーン
ソセーンツ
ラダック
リンガ
ロー—アイランヅ
マダガスカル
マカオ
マデーラ
マヘー
マラッカ
マルタ

マンダレー
マニーラ
マリヤンアイランド
マーケサスアイランヅ
マルチニック
モーリチュース
マヨット
モスカット
和蘭殖民地
ニウカレドニア
フィリッピンアイランヅ
ポンヂチェリー
ペナン
ポルトリコ

ポルトガル殖民地（七月一日ヨリ）
ソウニオン
セントマリー
セントマルチン
サイゴン
セヂガル
セーシェルス
シラズ
シベリヤ
シンガポール
西班牙殖民地
セントピエールル及ミケロン
シユレー
スマトラ

十 必ズ前拂ニ限リ且其前拂ハ國境迄ニ止マルヿヲ示ス
＊ ハ前拂ニ限ルヿヲ示ス

「量目ノ定限」 前記各國ニハ商品ノ見本ハ貳百五十グラム即チ五オンスヲ限リ一個ノ重量ヲ以テ送ルヿヲ得但シ此見本中香港ヲ經テ差出ス信書ハ此表中香港ヲ經テ差出ス信書稅ノ外壹通ニ付三錢ヲ加フ其他ノ郵便物ハプリンヂッシテ經過スルモノ及ハス

「郵便端書」 上海及聯約各國ニハ迅ク外國用端書發行相成迄當分之中內國用端書ニ應額ノ郵便切手ヲ貼附スルハ妨ケナシトス

「書留信書受取證」 信書受取人ヨリ書留信書受取證ヲ望ムモノハ書留手數料ノ外更ニ四錢ヲ拂ハシム

國名及地名

線路

	信書十五グラム即チ半オンス毎ニ	端書	書留	新聞紙百グラム即チ四オンス毎ニ	其他ノ印刷物五十グラム即チ貳オンス毎ニ	商品ノ見本五十グラム即チ貳オンス毎ニ
	錢	壹箇ニ付	手數料	錢	錢	錢
直チニ	五			二	二	二
合衆國ヲヘテ	十八			四	四	四
香港ヲヘテ	十二			四	六	六
合衆國ヲヘテ	二十二			六	十二	十二
香港ヲヘテ	十八			六	十二	十二
合衆國ヲヘテ	七			四	六	一
合衆國ヲヘテ	十四			四	六	一
香港ヲヘテ	二十四			四	六	一
合衆國ヲヘテ	十八			四	六	一
合衆國ヲヘテ	二十二			四	六	一
合衆國ヲヘテ	二十五			四	六	一
合衆國ヲヘテ	二十五			四	六	一
合衆國ヲヘテ	十五			四	六	一
合衆國ヲヘテ	八			四	六	一
合衆國ヲヘテ	十二			四	六	一
合衆國ヲヘテ	八			四	六	一
直チニ	五			四	六	一
香港ヲヘテ	二十八			四	六	一
合衆國ヲヘテ	十			四	六	一
香港ヲヘテ	二十四			四	六	一

附

（書籍新聞書留トナス）

（前拂ハ差出人ヘ送ル）

ニウヂーランド（信書ノ屬局前拂ハ普通ポンドト同ジ信書ノ屬局前拂ハ普通ポンドノ二倍）

（書留ノ信書ハ不足稅ノ二倍）

（前拂ハ普通ポンドノ二倍）

十 ハ前拂先拂共隨意ナルヲ示ス但シ聯約國名表ノ內ニ特記スルモノハ此限ニ非ス

外國來先拂信書ハ日本ヨリ其國ヲヘ發出スル前拂信書稅ノ外ニ五錢ヲ加フ不足稅ノ信書ハ先拂信書稅ノ中ヨリ現ニ高ヲ引去リタルモノトス

聯約各國ヘ宛タル先拂又ハ不足稅ノ新聞紙ハ一切差立スト雖モ先拂或ハ不足稅ノ見本書籍等ハ都合ニ依リ差立ルヿアルヿアルヿア

外國郵便稅表

萬國郵便聯約國名

國名	線路	信書十五グラム即チ半オンス毎ニ 錢	繪畫書類 壹箇付 錢	書留手數料 錢	新聞紙百グラム即チ四オンス迄ニ過サル壹箇毎ニ 錢	其他ノ印刷物五十グラム即チ貳オンス毎ニ 錢	商品ノ見本五十グラム即チ貳オンス毎ニ 錢
日本		五	三	六	二	二	二
ギアナ	直チニ	十	五	六	四	四	四
ギマパ	合衆國チヘテ	十八	六	六	四	四	四
カリカル	香港チヘテ	十二	三	六	四	四	四
ラブーン	合衆國チヘテ	三十二	十一	六	四	四	四
レ、セーシェル	香港チヘテ	二十八	十一	六	四	四	四
ラダック	合衆國チヘテ	十	六	六	四	四	四
リンガロー	合衆國チヘテ	七	一	六	四	四	四
マダガスカル	合衆國チヘテ	十四	一	十六	四	六	六
マカオ	香港チヘテ	二十四	一	六	四	四	四
マデーラ	合衆國チヘテ	十八	一	十	六	十二	十二
マヘー	合衆國チヘテ	二十二	一	十	六	十二	十二
マラッカ	合衆國チヘテ	二十五	一	六	四	六	六
マルタ	合衆國チヘテ	二十五	一	六	四	六	六
マンダレー	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
マニーラ	合衆國チヘテ	十五	三	十一	四	六	六
マリヤンアイランヅ	直チニ	五	二	六	二	二	二
マーケサスアイランヅ	直チニ	十八	三	六	二	二	二
マルチニック	合衆國チヘテ	十二	三	六	二	二	二
モーリチュース	香港チヘテ	二十八	十一	六	四	六	六
マヨット	直チニ	五	三	六	二	二	二
モスカット	香港チヘテ	二十八	三	六	四	六	六
和蘭殖民地	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
ニウガレドニア	合衆國チヘテ	十五	三	十一	四	六	六
フィリッピンアイランヅ	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
ポンヂチェリー	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
ペナン	香港チヘテ	二十八	三	六	四	六	六
ポルトリコ	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
ポルトガル殖民地（七月一日ユリ）	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
ソウニオン	香港チヘテ	二十八	三	六	四	四	四
セントマリー	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
セントマルチン	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
サイゴン	香港チヘテ	二十八	三	六	四	四	四
セチガル	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
セーシェルス	香港チヘテ	二十八	三	六	四	四	四
シラズ	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
シベリヤ	直チニ	五	二	六	二	二	二
シンガポール	香港チヘテ	二十八	三	六	四	四	四
西班牙殖民地	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
セントピエール及ミケロン	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
シエレート	直チニ	五	二	六	二	二	二
スマトラ	香港チヘテ	二十八	三	六	四	四	四
ストレートセットルメント	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
シュリナム	合衆國チヘテ	十五	三	十一	四	六	六
タヒチ	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
タンヂエール	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
テヘラン	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
テチュワン	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
トリニダット	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
トリニチー	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
チュニス	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
亞西亞土耳格	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
合併王國	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
ヴィルジンアイランヅ	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
ヤナオン	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六
ザンジバル	合衆國チヘテ	八十二	三	十一	四	六	六

＊ハ前拂ニ限ルコトヲ示ス

†ハ其前拂ハ國境迄ニ止マルコトヲ示ス

上海及臨約各國ニハ通テ外國用端書發行相成迄當分之中內國用端書ニ應額ノ郵便切手ヲ貼附スルハ妨ケナシトス

信書受取人ヨリ書留信書受取證ヲ望ムモノハ書留手數料ノ外更ニ四錢ヲ拂ハシム

差出人ヘ送ル

附註

前記各國ニハ商品ノ見本ハ貳百五十グラム即チ八オンス四分ノ三其他ノ物品ハ（信書ヲ除ク）一千グラム即チ貳ポンド二オンスヲ限トス

プリンヂシヲ經テ差出ス信書ハ此表中香港ヲ經テ差出ス信書稅ノ外壹通ニ付三錢ヲ加フ其他ノ郵便物ハプリンヂシヲ經過スルモ別段增稅ヲ拂フニ及ハス

（書籍新聞紙商品ノ見本證書類トモ書留トナスヲ得）

（前拂ハ着船ノ港マデ）

ニウヂーランドヘノ見本ハ信書稅ヲ拂フヘシ

（書留信書ハ壹通分ニ付郵稅四拾貳錢）

（信書ノ屆先マデ前拂スルヲ得ヘシ）

（前拂ハ着船ノ港マデアテマラエニ一ポント以上書籍ハ信書稅ヲ拂ハシム）

（信書ノ屆先マデ前拂スルヲ得ヘシ）

（前拂ハ着船ノ港マデ）

（書留ノ規則ハ聯約各國ト同樣先拂不足稅ノ郵便物ハ其郵稅或ハ不足ノ二倍ヲ拂ハシム）

（書留信書ハ壹通分ニ付郵稅四十四錢）

（前拂ハ着船ノ港マデ）

（前拂ハ着船ノ港或ハ國境マデ）

（書籍新聞紙商品ノ見本證書類トモ書留トナスヲ得）

（前拂ハ着船ノ港マデ

甲第三號

當使管下第二十五大區二小區根室國根室郡根室ニ於テ從前ノ市街ニ接シ新ニ街衢ヲ設ケ獨生町ト唱ヘ候條此旨布達候事

明治十年六月十六日

開拓長官黒田清隆

右之通達有之候條管内無漏相達者也

明治十年六月廿五日

京都府知事槇村正直

文部省報告第十六號

明治十年六月十八日發行

文部省所轄大阪師範學校ニ於テ小學師範學科生徒三十名ヲ限リ入學ヲ許ス志願ノ者ハ明治八年文部省第五號第七號及明治九年第六號布達ニ照準シ來ル九月一日迄ニ同校ヘ申出ベシ

右之通報告有之候條入學志願ノ者ハ來ル八月十五日迄ニ當府ヘ可願出候此旨管内無洩相達者也

明治十年六月廿五日

京都府知事槇村正直

明治九年十一月相達候京都裁判所支廳區裁判所分轄事務權限總而別紙之通改正來ル七月一日ヨリ施行候條此旨可相心得候事

但大津支廳移廳ノ義ハ追テ可相達且海津區裁判所開廳小濱區裁判所開廳日限相達候迄ハ海津區之義總テ從前ノ通可相心得候事

明治十年六月廿五日

京都裁判所長代理
七等判事增戶武平

右之通管內無洩相達者也

明治十年六月廿七日

京都府知事槇村正直

（別紙）

京都裁判所管轄區分事務權限

一本廳上京區甘雨亭町堺町門内櫻町

分轄　山城國一圓

丹波國四郡　桑田　船井　何鹿　天田

本廳直轄

一京都區裁判所　本廳内

分轄　左下京一圓

山城國三郡一區　愛宕　葛野　宇治郡ノ内第一區

同

一伏水區裁判所　伏水舊三區村上丁

分轄

山城國　五郡一區　乙訓　紀伊　久世　綴喜　相樂　宇治郡ノ内第二區

同

一園部區裁判所　丹波國船井郡園部

分轄　丹波國四郡　桑田　船井　何鹿　天田

一宮津支廳　丹後國宮津本町

分轄　丹後國一圓

宮津支廳管轄

一宮津區裁判所　宮津支廳内

分轄　丹後國一圓

一大津支廳　近江國滋賀郡第三區上平嶋町

分轄

近江國一圓
若狹國一圓
越前國一郡　敦賀
大津支廳管轄
一大津區裁判所　大津支廳內
分轄
近江國大郡貳區
同
一彥根區裁判所　近江國大上郡彥根
分轄
返江國五郡十三區　滋賀　野洲　甲賀　栗田
神崎　蒲生　高嶋　淺井郡ノ內第十四區第十五區
愛智　犬上　坂田
伊香　淺井郡ノ內第壹區ヨリ第十三區迄
同
一小濱區裁判所　若狹國小濱第二大區十貳小區竹原村
分轄

若狹國一圓
越前國一郡　敦賀
一宮津大津支廳ハ死罪并懲役終身ヲ除クノ外民刑一切ノ事務ヲ裁決ス
一京都區裁判所宮津區裁判所大津區裁判所ハ民事勸解ノ事務ヲ受理ス
一伏水區裁判所ハ民事金額百圓以下請求ノ事務ヲ裁理シ及ヒ民事勸解ノ下刑事懲役三年以下ノ四箇區裁判所ノ事務ヲ受理ス

甲第四號

昨明治九年四月甲第貳號ヲ以テ及布達候當省所轄造船所（ふねつくりじょ）雇職工規則中第十四條ニ左ノ通但書（ただしがき）差加（さしくわ）ヘ候條此旨更ニ布達候事

府縣

海軍大輔川村純義代理

海軍少將中牟田倉之助

明治十年六月二十三日

但願書差受書差出方ハ第四號第五號書式ノ通

右之通違有之候條管內無漏相達者也

京都府知事槇村正直

明治十年六月廿九日

第四號

定雇職工繼年期入業願書式

紙半紙二ツ折二タ通リ

定雇職工入業願書

何年月日何國郡村地ニ於テ生

何府縣何大區何小區何町村何番地住又ハ寄留何士族カ平民カ何ノ誰倅カ二三男カ

何之誰當幾年幾ケ月

右者御所定雇職工何年何月ヨリ何ケ年期ニ御採用被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付同年何月ヨリ更ニ何ケ年期入業御採用被下度請人連名ヲ以此段奉願候也

年號月日

右本人 何之誰 印

第五號

徒年期入業許可濟ノ時証書ヲ差出ス可キ通リ

請書

何府縣
第何大區何小區何村
何番地住又ハ寄留
士族カ平民カ
何之誰倅弟カ二三男カ

何之誰

當歳年齢ケ月

右者御所定届職工何年何月ヨリ何ケ年期入業御許可被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付同年何月ヨリ更ニ何ケ年期入業御許容被下候ニ付テハ總テ御規則ノ次第堅ク相守リ其他都度々々御達筋等決テ違背不仕候

身元引請人

造船所

御中

前書之通願立候ニ付奥印仕候也

何府縣
第何大區何小區何村
何番地住又ハ寄留
士族カ平民カ

何之誰印

本人現住區ノ戸長ナリ

横須賀造船所

願之通

年號月日

第何大區何小區
戸長

何之誰印

萬一不貞之所爲等於有之ハ至當之御處分相受可申候
仍テ証書如此ニ候也

年號月日

身元引請人
本人現住區ノ戸長ナリ

造船所
御中

右本人
何府縣
第何大區何小區住又ハ寄留
士族ヵ平民ヵ
何之誰印

右何大區何小區
戸長
何之誰印

誠書之通リ相違無之仍テ奥印仕候也

士手町女學校ニ於テ毎月七ノ日午後第一時ヨリ同四時迄學務課官員出張聽談致シ候ニ付婦女輩聽聞差許候旨被相達置候處本年暑中之間七月ヨリ九月迄午前十時ヨリ正午十二時迄ニ右時刻繰巻ヘ該校ニテ講談致シ候條此旨管內無洩相達者也

但本年八月中ハ該校休業ニ付講談之儀モ休講之事

明治十年七月二日

京都府知事槇村正直

第百七十七號　十二ノ二

昨明治九年九月一日第三百八十號ヲ以テ相達候就學牌之儀此節稀ニハ幼穉玩具ト心得違シテ似寄之品賣出候者有之ヨリ不就學之者ニテ儘此等疑似之品ヲ佩ヒ居リ依此混雜ニテ學事勸奬之大旨ニ相戻候義ニ付向後是等疑似之品製造販賣差止候條學區取締戸長之向ニ於テモ深ク勸學之旨ヲ體シ精々注意可致此旨管内無洩相達者也

但學牌ノ鎖リ長キモ壹寸五分ヲ超ユベカラズ

追而府下學牌製造人別紙各前之者ニ有之候條學區取締捺印之書ヲ以テ製造相托シ可申製造、人モ亦學區取締捺印ノ書ヲ得ルニ非サレハ明ニ製造致間敷候事

明治十年七月三日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年七月第百七十七號　〇一

別紙

府下就學牌製造人名

上京第廿三區梅屋町　佐々木嘉兵衛
上京第廿七區西大黒町　中道文助
上京第廿九區觀音町　深川源次郎
上京第三十區尾張町　大場新兵衛
下京第三區中之町　加藤嘉七
下京第八區壬居之内町　藤林供兵衛

962

第四拾七號

郵便切手六錢拾錢拾貳錢拾五錢并郵便封皮貳錢長角形ノ左ノ見本ノ通改正候條此旨布告候事

但當分從前ノ切手封皮ヲ取交相用不苦事

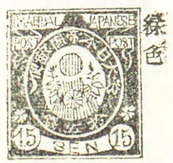
明治十年六月廿九日

右大臣岩倉具視

緑色

淡青色

淡紅色



緑色

下京第廿區西川原町　堤見藤助

下京第廿一區山崎町　村上重助

下京第廿三區若屋町　中野喜兵衛

下京第三十區新シ町　廣瀬彌兵衛

下京第三十區西境町　寺本勘助

山城國相樂部第三區木津村　緑光忠助

丹波國船井部第二區園部本町　野村貞吉

右之通被　仰出候條管內無洩相達者也

明治十年七月三日

京都府知事槇村正直

灰色

雛形

灰色

第百七十九號一午十三ノ三

詞訟等宛名自今左之通相認可差出候事
（うったへどとのめあて）

京都裁判所長

增戸判事殿

京都裁判所

明治十年七月三日

右之通管内無洩相達者也

京都府知事槇村正直

第四拾八號

西洋形船長運轉手機關手ノ免狀ヲ所持スル者及ヒ官立公立學校ニ於テ海技卒業免狀ヲ所有スル者其他水夫ノ三年以上實職ニ從事シ實歷明確ノ者ハ自今陸軍徵兵免除候條此旨布告候事

但海兵編入ノ儀ハ成規ノ通タルヘキ事

明治十年七月四日

右大臣岩倉具視

右之通被　仰出候條管內無漏相達者也

明治十年七月九日

京都府知事槇村正直

京都府布令書明治十年七月第百七十八號 ○

東京府布令書明治十年七月第百八十號

京都府布令書明治十年六月第百八十一號

右之切符壹葉致紛失候旨六月廿日届出候條何人ニ不限

無効

十年三月十九日

京都府

公債掛 印

三井銀行

五拾銭

金五拾錢也

右引換可相渡事

證

芳野又右衛門

所持居候ヲ見聞候ハヽ、速ニ當府又ハ最寄之出張所ヘ可
届出此段管内無洩相達者也

明治十年七月七日

京都府知事槇村正直

大阪上等裁判所ヘ差出ス詞訟等悉皆名左之
通相認可差出候事

大阪上等裁判所長心得

尾崎判事殿

右之通管内無洩相達者也

明治十年七月十日

京都府知事槇村正直

第四拾九號

民事刑事ノ上告シテ已ニ裁判ヲ經タル者司法卿其裁判ヲ允當ナラスト思量スル者アル時ハ檢事ヲシテ再審ヲ求メシムルコトヲ得ヘシ

右布告候事

明治十年七月六日

右大臣岩倉具視

第五拾號

諸證書ノ姓名ハ必ス本人自ラ書シテ實印ヲ押スヘシ若シ自書スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代書セシムルヲ得ルト雖モ必ス其實印ヲ押スヘシ其代書セシ者ハ本人姓名ノ傍ニ其代書セシ事由ト己レノ姓名トヲ記シテ實印ヲ押スヘシ

右布告候事

明治十年七月七日

右大臣岩倉具視

第五拾壹號

硝石輸出差許候旨明治六年二月第四拾七號ヲ以テ相達候處來ル八月十日ヨリ當分ノ內輸出禁止候條此旨布告候事

明治十年七月七日

右大臣岩倉具視

右之通被　仰出候條管內無洩相達者也

明治十年七月十二日

京都府知事槇村正直

甲第十三號

府縣社以下神社什物之儀自今左之通相心得取締可致此旨布達候事

明治十年七月五日

內務卿大久保利通代理

內務少輔前島　密

一什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細帳簿ニ記載シ尚他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名等ヲモ記入スヘシ

第一類　寶物古文書

第二類　祭具什器幷持添之田畝附屬之建物等

右牒簿貳部ッ、編製神官并氏子無之向ハ總代貳名以上尚該地之區戸長連署調印壹部ハ區戸長役所へ壹部ハ其社ヘ藏メ置ヘシ

右之通達有之候條管内無洩相達者也

明治十年七月十二日

京都府知事槇村正直

甲第十四號

明治十一年佛國巴里府萬國大博覽會諸規則別冊之通相定候條此旨布達候事

明治十年七月五日

内務卿大久保利通代理

内務少輔前島密

右之通達有之候條管内無洩相達者也

明治十年七月十二日

京都府知事槇村正直

（別紙）

佛國巴里府博覽會出品概則

來明治十一年五月一日ヨリ十月三十一日迄佛國巴里府ニ於テ萬國博覽會開設ニ付茲ニ出品ノ概則ヲ示ス左ノ如シ

一　出品ヲ望ム者ハ本貫又ハ寄留地方廳ノ添簡ヲ以テ來ル七月三十一日迄ニ事務局ヘ申出ヘシ

但航海志願ノ者ハ畧目錄ノ職業族籍ヲ明記シ本時七月三十一日ニ出願スベシ

二　生産人造ニ限ラス說アヘモノハ其著說ヲ附スベシ

其例

一　天產物ハ見出シ人名年歷產地物質用法及產出

高等

一　人造物ハ新古發明人名工名年歷沿革物質製法

但製造ヲ秘スルモノハ記載ニ不及　用法原價製出高外國輸出高等

三　畧目錄ヘハ物品ノ凡積原價及ヒ荷嵩等ヲ記シテ差出スベシ

但外法三尺四寸二分立方（即一噸）ノ箱詰ニシテ凡幾箱トナルベキヤノ見込及ヒ會場ヘ陳列ノ節凡何坪程ノ場所ヲ要ス可キヤノ見込ヲモ併セテ書出スベシ

四　出品者ヘハ出願ノ順序ニ從テABCノ符號ヲ配與スルニ付物品幷箱共ニ必ス其符號ヲ記スヘシ尚委細ハ附錄及出品者心得等ヲ參考スベシ

五　物品ニハ一ヨリシテ逐次ニ番號ヲ目錄ニ照シテ

貼付スベシ尤同種ニテモ價ヲ異ニスル品ニハ同號ヲ附スベカラス而シテ何レモ目錄ト齟齬セザル樣注意スベシ

六　外箱ノ寸法ハ曲尺三尺四寸二分立方歟或ハ其折半歟四半折ニ仕立品物ヲ詰合スベシ尤重大ノ品或ハ易クシテ他物ト詰合セ難キ品ハ此限ニアラス

七　出品本目錄ハ本年九月中迄ニ各三通ヅヽヲ差出スベシ其用紙ハ當局ヨリ下ケ渡スニ付物品調製次第請取方申出ベシ

八　但物品落成ニ至ラス原價未定ノ物ハ追テ落成ノ上記入致シ苦カラス

出品ハ明治十一年一月一日ヨリ三月三十日迄ニ會場ヘ輸入スベキ規則テルニヨリ本年十一月中ニ取纏メ横濱ヘ差出スベシ尤場所等詳細ノ儀ハ追テ當局ヨリ通報スベシ

九　但十分精良ヲ盡シ度ヨリ右期限ニ後レベキ見込ノ品ハ其旨速ニ申出ベシ

物品ハ其出品主持參渡航スルハ勿論ナレ𪜈若シ專故アッテ他人ニ委託スル時ハ委任狀ヲ渡スベシ而シテ本人並委託ヲ受シ者連印ニテ出品本目錄ヲ差出スベシ

十　特ニ展觀ニ供スルノ品ハ目錄ニ其趣ヲ記載スベシ尤賣却ヲ欲セサル品ト雖𪜈海上保險等ノ部合アレハ原價ハ必精細ニ記載スベシ

十一　物品ハ其出品主又ハ代人持渡ルヒ或ハ他人ニ委託スルモ一應本局ノ檢査ヲ受ベシ

但同品多數アルモノハ其内一個ヲ以テ檢査ヲ受クベシ

十二　出品ハ其所在地ヨリ橫濱藏入迄ノ運賃ハ自費タルベシ橫濱藏敷並同所ヨリ佛國巴里府迄ノ海陸運賃及ヒ保險料ハ一切官ヨリ給與スベシト雖其船積高ハ費額ノ都合ニヨリ適宜之ヲ減省スベシ

但持歸品ノ運賃及ヒ本文ニ揭グル諸費其他ノ雜費共總テ自費タルベシ

十三　出品ハ橫濱藏入中及佛國ヘ着荷ヨリ會場陳列中ト雖モ官ニ於テ保護ノ權防ハ爲スベシト雖モ非常災害及變傷等ノ責メニヲ有メルヿ無シ

十四　爆發物及ヒ醜態汚穢惡臭アル物ハ出品ヲ禁ス

十五　御國輸出稅ハ免除佛國輸入稅等ハ追テ達スベシ

但輸入稅ハ賣捌ケシ物品ノ原價ニ應シ稅關ニテ徵收スルモノナレハ原價ハ必確實ニスヘシ

十六　物品陳列ニ付テノ飾箱飾臺敷布等ハ一ト通リ官ヨリ給與スベシト雖モ自己ノ好ミヲ以テ製作スルハ自費タルベシ

十七　出品主并代人委託ヲ受シ者等往返旅費ハ官ヨリ給與スルト雖モ費額ノ都合ニヨリ其人員ハ適宜之ヲ減少スベシ尤彼地滯在中宿料食料其他旅中ノ雜費ハ一切自費タルベシ

但御國內及ヒ東京橫濱往返旅費ハ一切自費タルベシ

十八　出品中貴重ノ物ハ火難請負ヲ託スヿ各國大低皆然リ其入費ハ概シテ原價百分ノ三位ノ割合ナレハ託

スベキ見込アル者ハ其金額ヲ用意シテ渡航スベシ

十九　渡航人ハ可成佛語ヲ解ス手代ヲ召連ベシ若シ不得止ハ通辯人ヲ雇ヒ使用スルモ妨ケナシ其通辯人ハ手代ノ内ト見做ス可シ

但召連ヘキ人員ハ本貫姓名ヲ詳細當局ヘ届出ベシ又通辯ノ試驗ヲ乞ハヽ其可否ヲ審査シ與フベシ

二十　本年内國勸業博覽會ヘ出品ノ内ヨリ該會ヘ出品セント欲スル者ハ其旨最初出願ノ節申出ベシ

廿一　該會本館ノ陳列品ハ新製ノ物ニ止ルカ故ニ古器物ノ出器ヲ許サス

但製造ノ年歴及ヒ人名判然ニシテ精巧ヲ極メ本邦美術ノ沿革ヲ徴スルニ足ル物品ニ至リテハ當局ニ於テ檢査ノ上特別ニ免許スベシ

廿二　出品本目錄入記目錄認方并荷造心得方ハ附錄ノ通心得ベシ

出品概則附錄

第一出品本目錄之事

凡例

一區　此區へハ預布せし區分目錄ふ照準し第何大區何小區と記載すべし

但し區の違ある品ハ別紙を用ゐべし

一出品主　此區へハ本人代姓名を記し實印を捺すべし若し甲乙申合せ總代を以て從事せしむるの他人へ委托するかの節ハ連印にて差出すべし且符號を認め入れ置し

但し結社又ハ組合を設け或ハ結社又ハ組合の名義なくとも數人申合せ出品するも等のも代ハ社名又ハ組合名或ハ連名を記載し社印又ハ組合或ハ連印を捺すべし最も多人數ふて區内へ記入しかたき時ハ便宜ふ寄り誰外幾名と記するも妨げなし

本人書式

（使府縣府縣藩）何國何郡何村町住（但寄留人ハ本籍庄寄留地をも記す族籍又職業名）苗字名實印

委托書式

（使府縣府縣藩）何國何郡何村町住（但書前ふ同し族籍又職業名）苗字名實印

本人　前ふ同し

肩書前ふ同し　苗字名實印

引受人

一番號　此區へハ順次物品の番號を記載すべし

但し區類替ると雖とも番號ハ順を逐て記す
但し譬ハ十品の内第一大區十小區に五品あれハ(一よる五ふ至り)第二大區十五小區に五品あれハ(六より)十に至る)の類なり

一物名　此區へハ譬ハ米○麥○鏃○砥石○緞子○縮緬○綿布○麻布○花瓶○香爐○手箱○椀○紙○扇子○團扇○竹骨等の如く委敷其源一製

一實　此區へハ譬ハ米(細稲晩稲早稲)○鏃ハ(金銀)○砥石ハ青磁荒砥○織物ハ絹綿木綿麻何々交織芭蕉皮○花瓶香爐等土焼ハ陶○同しく石焼ハ磁○椀ハ何木○紙ハ楮○扇子ハ竹骨を示すべし

一製　此區へハ米ハ玄米白米○織物ハ何色竪縞何色何の圖○椀ハ溜塗無地朱地ふ金の何模様○扇子ハ白地ふ藍繪等の模様及び形狀あるもハ其形狀を記載すべし

一數　此區へハ一對一個一反一斤一組等と記載し組合せたるものハ但し一組何枚一組何個と傍記すべし

一尺量　此區へハ譬ハ花瓶○置物○織物等各物品よろ縦横又ハ恰好を要するものハ曲尺何尺何寸を記し且斤量を稱するものハ斤數を記載すべし

但し何品ふ限り一斤ハ百二十目斤と心得

書式

第大區小區	品物名號	品質	數量	産地	製造人	原價	雜費	賣價

一産地　此區ヘハ物品産出の地名を記載すべし

一製造人　此區ヘハ製造人の住所姓名を記載すべし

但し數人協力分業して製成するもの譬ハ漆器木工雛地塗雛の如きハ各名を記載すべし

一原價　此區ヘハ製作等仕揚け迄の費用を記載すべし

一雜費　此區ヘハ産地より迄の人費を其時々取調ヘ置本人又ハ代理人必ず持參し彼地に於て輸入稅海陸運賃等の諸費取調ヘ合計の上記入すべし

一賣價　此區ヘハ原價幷に雜費及び利益の見込を合計し賣價を記載すべし

第二入記目錄之事

一入記目錄ハ輸出入の檢査を受け稅を拂ふ時の証となる必用の物なれハ箱中品物個數原價等ハ確實に認め洩をさゞるやういたすべきハ勿論なから混雜の際あやまつて認落等のなきやう最注意すべし且出品ニあらざる私用品幷制禁ノ品物等を決して詰合すべからず依て認方ハ左の書式に倣ひ界半紙へ認め一通ハ其箱ニ入二通ハ荷物詰合濟至急差出すべし一本局に於てハ之を帝國大小關課をなすべし

但し外箱ハ區分目錄の大略毎に別に製すべし

書式

A 第何號　出品主　何之誰

第何大區何小區

符號	物名	數	原價
A 壹	銅何々	何	金何百圓
A 拾	鐵何々	何	金何圓何錢

第何大區何小區

A 四	磁器何々	何	金何錢何厘
A 百	陶器何々	何	金何拾圓

原價計金何百何拾何圓何錢何厘

第三物品荷造之事

一物品の荷造りハ大切の事ふて若し運送中破損する時ハ數月月精をこらしたる品も開場ニ陳列して名譽を

ゆへ用う可らず

一佛國ハ木材高價なるよしを付梱等の如き上等の材よて外箱を造て特越セハ其箱不用になりて資㕝ふ時よき價ふなる事もありと聞ゆへ纖材よて造りたる箱を不用の時捨るとき其損益を鳶と考へ都合よき方ふすべし

一平らふて大なる品を入る、箱ハ運送中あげおろしの時箱の横みて損する事あてその防きにハ外面ふ機を格子ふ打べし

一箱ハ四角ふ限らす品ふ應したる形又ハ樽桶其他種る㕝をいとはぬ物ハ第一圖の如き格子造その箱もよし

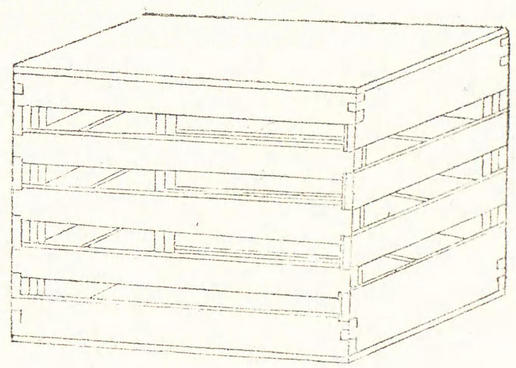
得る事あたとす且多少の資本金も損失となるゆへ荷造ハ費用をいととす手厚くするハ錦々の心得ふもあるへき事なるら未た遠方へ荷物を送りく車のなき者すくなるらす依て凡の心得をホすゆへ是ふ洩たる物を各種の荷造を見合せ其宜しきふ倣ふ㕝し

一外箱ハ符號番號并品主人名共木札ふ認め假ふ打付置㕝しいよ〳〵發國へ輸送の時ハ當局ふて一体ふ梱ふやう認むへきよつき決くて箱へ直ふ認むへからす

一壹噸内外位までの外箱ふ木目の通らぬ松荒木壹寸板ふ用る格別大なる品ふ重き物ハ壹寸五分板ふ二寸板ふ用の或ハ壹寸板位ふて箱ふ造て外面ふ搭千の枠ふ打付るもよし尤各地ふ於て右木品よて丈夫なる板あれハ何ふてもよろしといへ共る杉桧の板ハ裂け易き

一外箱の角ハかならず組合せ其上へ釘を打廻し
但し外より打ハ常の仕方なれとも内より入る、物ハ
壊し内より打をよろしく
一外箱の蓋ハ開閉便利の為必ねじ鉄にて留め廻し決て
釘打になすべからず
一箱樽とも重き物を入れたるハ帯鉄を惣体ふり打廻し輕
き物を入るハはなはだしきハ壹尺位ひつゝふり打廻
一一函にて大箱を用うる物ハ格別其他は小箱に造るか
た然し少なし
但し運賃ハ三尺四寸二分ま方(一噸)を以て拂ふ事な
れハ成る廻くハ右の寸法の一倍又ハ半の四分の一
或ハ三分の一等に當るやう造る方便利なり

第一圖



一外箱丈夫なれハ二重箱ハ無益なり是非とも内箱を要する乙のは荒木にてよし一桐其外上等の品ハ是又無益なり桐の箱ハ其板より發出する瓦斯にて内へ入たる器物一面に脂を被ふ患あれ共甚よろしからず

一内箱に詰たるを外箱に入るるときハ箱と箱との間ハ少しも透のなきやうに詰もつ透あらハ機を以て内箱を堅く押へ機の兩端又ハ一端を外面よりねじ鎖にて留置くべし

但しブリッキれ中箱ある物ハ莫干草の類にてかたく詰べし

一陶器硝子器等の類にて破損し易き品の入たる箱詰の工合を知らすして開く時ハ器の損ずる事あるゆえ其心付あき廉を外箱の蓋の内箱の表に明細ゟ認置べし

一詰物ゟ用ゐる藁干草、紙屑、銘尽、綿の類ハ土砂のかけたるか濕氣のあるを用うるときハ器ゟ腐付め又錆の出る事あり心得て用うべし

但し古棉ゟて金襴の物を詰きハ錆の出るゆえ必ず用うべからず且紙屑の類ハ運送中片寄て器の損ずる事あるゆえ銘尽を取交わたく詰めべし

一金銀珠玉等の如き貴重の品を入る箱ハ別して手堅く造るべし

一陶器硝子器を厭ふ品ハ藁か苴、鉛板ゟて中箱を造るべし綿合せゟ塩酸を引き其上白蠟を以て離れぬやうに着けべし

但し板を用の時ハ以て繼合せるハ常の仕方なれども離れ易きものなれ

一器を幾個ふも取離れたる物を合口の擦せぬやう攻きハ勿論留ねじ等の紛失せざるやう都合よく詰合すべし

一上等の陶器ハ綿布ふて包み又ハ綿布ふて巻包し之を箱詰ふずる時ハ綿の和らかき敷物を用ふべし

一同し書物等の類ハ四角の隅へ別して多く綿を置き押への為め其上へ薄き板を宛て其板の動かぬ様古布等ふて縦横ふ幾重も堅く巻立箱詰すべし

一絹織ハ綿布ふて幾重き巻べしもさらし古布ならハよく洗ふて汚れのなきを用ふべし

一上等の陶器磁器硝子器類ハ紙ふて両三度水はりいたしよく乾あけて和らかき藁を以て荷ふ造る通し又それを箱詰ふずるふハ打藁又ハ和らかき敷物を用ふべし

一上等の陶器磁器硝子器類ハ紙ふて両三度水はりいたしよく乾あけて和らかき藁を以て荷ふ造る通し又それを箱詰ふずるふハ上下四方の明きを同し様ふし前ふ記す詰物を以て動かぬやうふすべし

但し素焼物又ハ艶消し硝子を反古ふて水ハりすべハ其墨うつりて急ふ取れぬ事あり又藁ふ湿りあれと箱の内ふて蒸れ藁じみを着る患あり能々心付べし

一同上蓋物の類ハ蓋と身の間皿の如きハ皿と皿の間へ藁の類を以てへだてふすべし又小器物を一箱に詰合すもおなじ又器のうつろへハ前の詰物の類を詰置けハ外よりの響きにていたむ患をふせぎ又壹つ損したとも他の物の損じぬふせぎにもなる事あり

一織物ハ紙にて包み四五又寄せて板にはさむ体に巻きて油紙又ハ渋紙包みにすべし尤包む前ふ能乾わさ

ぎれハ箱詰れ内に斑を生ずる患あて能々心付べし

一上等の鉄器打物ハ丁子油を引て錆の出るを防くべし

一下等の品ハ石炭油を引てもよろし

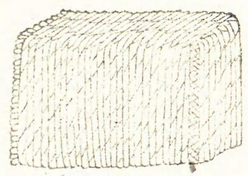
一提燈ハ紙ホ包み枠の大きさを同しなるを合せ五張位寄せて糸ふて結ぶもよし併し可成ハ枠をはづして詰合す方宜し扇ハ壹本つゝみ紙ふ包み長さを揃へ拾本位つゝ糸にて結ひ内箱へ入小間物類ハ紙ホ包み内箱へ入何れも動かぬやう詰込べし

一鏽石土砂草木乾實類ハ一品毎ふ小箱ふ入るゝか又ハ布の袋ふ入て混亂せぬやう詰合すべし

但し箱詰前ホ能々乾すべし

一板石砥石ハ縄ふて縦横ふ第二圖の如く巻き薦包みふなすべし破損の患ある物ハ包みたるを箱ふ入れべし

第二圖



一油水物類ハよく鑞付したる鑞葉の筒等へいれ其合せ目をまたよく鑞付し少しも漏さるやうにして菓ふつゝみ箱詰すべし或ハ厚く丈夫なる壜ふ入れ栓又ハ厚浮皮の上を石膏粉（石膏と粉にあしてもの）にて之と水にて煉れハ容易にかたまる物）ふて封し又ハふて仕切のある箱へ詰るもよし

一燃質物ハ硝子壜又ハ鑞葉箱ホ入堅固なる外箱へ詰め他の品を詰合すべからず

但し危難の恐ある事を木札ふ認め外箱ふ打付べし

一木材類ハ板と板との間ハ和らかき俵屑ふて劃たる所の摺れぬやうふし繩ふて幾所も結び箱ふ詰るゝ薦ふて卷べく荒材ハ薦ふて二重ゝ三重位ひふ卷き造るべし

一竹類ハ一本つゝ、第三圖の如く卷き幾本も密せ繩ふて四五ケ所結ひ箱詰ふすべし尤長大なる物ハ外を薦ふて二重ゝ三重位ひふ卷造るへし細小の竹ハ紙ふて卷き箱ふ入るゝゝ蓮包ミにすべし

第三圖

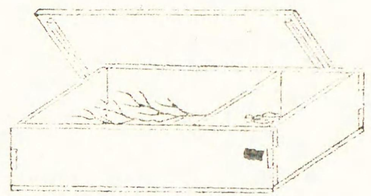
一劃皮の製品を頭のかたより卷き初又毛皮ハ平らまし

て箱ふ入る劃竹又ハ木ふて押へ動かぬやうまし樟腦を入置へし決して藁等にて詰込へからず

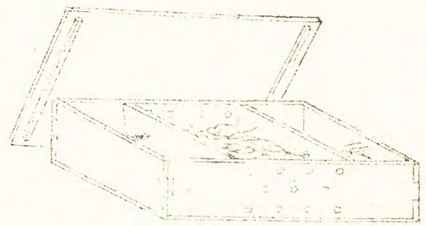
一植物を西洋へ送るは熱地を通る事ゆへ其心得なけれハ乾き又ハ蒸る等の患あり總て苗木を凡拾本位を一束ねなし通常箱ふ送り一束つゝ次第ふ積入根の方ふ濶ひたる水苔又ハ土を詰込むべし此土を留るふハ板を以て第四圖第五圖のごとく造りふ造り且蒸る患を防く易きやう第五圖の如く箱の四面に小穴をあけ空氣の通ひ

京都府布令書明治十年七月第百八十五號

第四圖



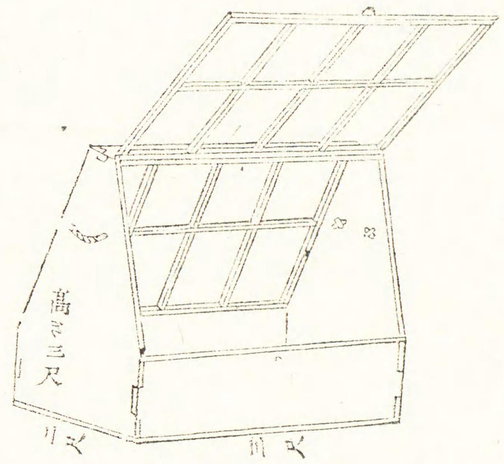
第五圖



一鉢物ハ第六圖の如き箱ふ入るゝ先其箱の底ふハ炭屑又ハ小土塊を入るゝ其上ふ鉢物を並へ入れ鉢と鉢との間より其縁りまて水苔を詰へし直ふ苗物を右の箱ふ植んとならハ先箱の底ふ炭屑及ひ小土塊を入るゝ上面ふ細かき土を入れ苗物を植込ミ其上ふ水苔を置へし底に炭屑等を入るゝハ水氣の漏るゝに便にし腐れを生せしめさる爲なり且箱蓋の硝子板(ガラス)他物にふるゝて損する患あり之を防くに木竹又ハ鉄線(ワイヤー)を以て適宜ふ蓋の面をおゝふへし

に倣ふべし餘り大き過ぎは送るに便ならず

第六圖



一第六圖に出す箱の寸尺は入るゝ物により異同あれは適宜にすべしといへども凡そ圖面に記す所の寸尺

佛國博覽會出品者心得

一佛國博覽會へ出品する者ハ先づ出品概則及ひ區分目錄を熟讀すべきハ勿論なれども尚心得となるべき箇條を此册ふ說示すふ付き能く此趣意を服膺くて先年澳米其他の博覽會にて得たる處の名譽を猶此會ふ增添へる樣勉勵すべし

一各出品者に於て物品の利害得失を計るハ銘々辨居ることゝ雖とも着意の始め其目的を判然二途に分たざるべからず其一ハ勉めて我精神を盡し其妙所をして人を感動せしめ精巧美長を盡すにあり其一ハ廣く各國人民需用ふ便宜を主とし製造方を親切にするは勿論なれども第一價格を廉なるを以て主眼さするにあり如此二途の目的上ふ着て盡力し審査の際賞牌を得て美名ヲ海外ふ輝かく將來御國産の輸出を增進する其目的最肝要に付き假令下廉の物品さいへとも堅固に製すべし從前稱賛ふ一已其利を得んとして敢て損し易き品或ハ不深切なる物品は決くて製造すべからず必す大ひなる患害を醸し終には御國産ハ遂ニ價を墜すべく因て心得方を詳ら

一農業上ハ産物を出品する者ハ心得は穀物乾果或は生糸茶烟草等乃類ふ至る迄其善良乃種を撰ふへきは勿論なれと其心得方ふ二樣あり

第一には商業上ふ見本ふて後來輸出すへき目的ふ品第一には何に限らす其請求を同一に製く譬は〆印の茶は壹

箱十斤詰にして ㊥ 印砂茶ハ二十斤詰といふが如く外箱乃記號を一見して其品位を能く分り外人乃信を受る様心掛く可し此箱へ記する印先ふ其名前お印ハ商標といいて外國人ハ最大切ふする事なれハ ㊥ 印お品よ ㊥ 印の品を奪へ人を欺く等お事決してある可からす而して其價ハ時々お相場よて高低ある可し ㊥ 印お品ハ何時も ㊥ 印お品ふ一て決して其品位を降さゝる事ハ勿論なり

第二には蒐集お見本なりと雖も米なれは諸國産お米糯米旱稲に至る迄早中晩お種類等を多く集め出品するなて其他雑穀蔬菜茶類も同様お事と心得可し又生糸は御國産お第一なれは各種を集めて一二把つゝ差出すもよろし是等お蒐集品は農業上に於て多くお種類を比較するふ缺可からさるお品なれば其種類を多く集むる程宜しきなりとされ共商法上の引合ある可き ふ付き其節不都合の無き様代價等ハ豫て取調置可し又譬は米なれは粒より白米ふする迄の順序を示し糸なれは繭より繊物に造る迄お順序を示す等もよろし

一工藝製造を業とする者は妙技進歩功勞乃三つに着意すべし抑工藝ハ各國固有乃風致ありて決して一様なら ず譬ハ支那ハ其國風に自ら妙處あり西洋各國も亦各其風を異ふして各妙處ある如く日本ハ又日本風の中に妙處ありて他國人の決して模擬すへからざる處あり又人々其技倆ありて他人乃模擬し難きもお あり古物を鑑定するに其作者お技倆他人お及ふべからさ

る處を察して是ハ誰れ作と定むるも此理に外ならず然れハ萬國の技倆を集萬する該會ふ向て我在來の風習を打棄て他國の風格を摸擬し批評を取り國譽を揚けんと欲するハ木ふ縁て魚を求むるの類なり宜しく志慮ある處し

某かた去年米國の博覽會よりの話ふ朝しての話ふ魯西亞より其出品ハ歐洲各國の製品とは更ふ異なりて聊かも英佛等の品ふ類似せず全魯國固有の風にして然も大に譽を得たる仍て其故を聞ひしに魯國美術家某氏が此會ふ先ち一説あるそハ魯國乃て説出を一變し兎角他國の風習を模擬する事に而已傾きて何つも博覽會に名譽を得す仍て米國費府の會にハ自國固有の風格を以て諸品を製造出品せんと願ふ衆工を勸奨せしふより斯迄各國とハ異なれりと答へもと云々是誠ふ至當の高論なるふよて玆に附載す

一工藝者自己の技倆を示さんと欲せハ一物を製するふも先つ其功用の如何せは方今世上ふ適當する哉否を篤と考へ定め其形狀模樣畫圖彫刻塗等の手段ニ至てハ自己の見識を定め他を顧ろ事なく一向ふ取掛りて十分に技倆の妙處を顯す處し如何となれハ斯くなれハ英人の望ミに適す處を設又圖樣ふ造らされハ佛人の眼ふ入るまし杯と遑々間つくろひ兎やせまに角やせましと惑ふ間にハ已ふ見識ハ既に消滅して多年丹誠の甲斐もなく其作り出す品ハ書せ集め物の如く終ふハ人の笑となりて神妙れ手術も世ふ示す事を得ざ

るべし總て精神を凝し十分ふ製造せし品ハ人の感せぬと云ことなし古來名人上手と云はる、諸職工は皆其技倆に精神を凝して造り出すに因り今に至る迄美名を殘し其器物は皆王公貴人に愛玩する所となるは精神を凝して造るとの間にあるのミ等閑に製するとの間にあるのミされば佛國の出品には各職工多年熟練の功を積し藝術を十分ふ盡し創造勉勵精神を一に凝し美名を海外ふ顯し國威を輝す意を一併し物には自ら品位相當の定價あるものなれば利益は至當ふ計算して一時非常の利益を得んと望むべからず

一日用諸品の如きハ最便利にして低價を旨とし自然品數多く賣れ捌けて永遠の利益を得ることふ注意を專とし其製造ハ實質を本として假令工數を省くも保

方を第一とし容易ふ破壞脫落せざる樣製すべし又裝飾物ハ工夫を加へて巧なるものとし不便なりし至便利なる樣改め製し高價なるべくハ下直ふ作り不足の物ハ之を補ひ昔よりなきものを新ある製す出して便利を超す等ふて造成功勞の愚を得る事を勉む專し

一製造者の最注意すべき條件の大概左に示す

一用前の適否を熟慮する事

一品部を高くして野卑ふ流れざる事

一損害を防き保ち方を工夫する事

一都て模樣ハ新古雜答等彼是混雜せざる採取合せ方を考へ又模樣をハ餘り多に過ぎさせぬ事

一高所ふ置くべき物遠見すべきもハ卓上ふ置き或ハ手に取るべきもハ等ハ其工夫各異なるべし

け遣くよりも看るもの代等ハ模様細工ハ纖明ふして餘り細工過きぬ様ふし卓上に置き或ハ手に取り見るもの代、模様細工ハ細密ふして物隱ふ心を用うべき事

一流行に後ざぬ様ふ注意し又ハ流行を始る様心掛べし

一陶器畫繪ふて我國ふなきもの代をこむを得をれざるも可成丈從來の畫樣を用うべし殊ふ藍色料ハ畫燒青を用て洋青を用うべからず

但し下廉を要するの日用雜品ハ洋青を用ゆるも妨けなし

一陶銅器ハ香盞ハ滑ふして盆又ハ臺等ふ傷つけぬ様注意する事

一漆器ハ木地を撰み下地等を堅固ふする事

一銅器ハ色付の容易ふ變らぬ様工夫する事

一七寶燒ハ針金の繼合せを能く調へ七寶藥ハ潤澤ありてたゞれぬ様になすへく又蟲等にて疵跡を埋るわ至て悪き事

一絹類等ハ織方模様等流行によりて變化するものなれわ流行不流行のなき品を考へ出品する様注意すべき事

一織物ハ艶色等の變り易からぬ様且糸ふ節なき様ふし又糊つよき時ハ温氣ふ逢て星斑を生し易し能々注意すへし其幅長け等を取調るわ緊要の事

一寄木細工其他糊着を要する物等ハ木地の狂はぬ様ふなし且膠糊を撰み至極堅固ふ仕立る事

一都て錠前金具等工合を宜くして保ち方ふ注意する事

一多人數ホて製造する品は手際ホ甲乙なき様申合す事
一輸出を目的とするものハ彼地の相場を取調へ（價格）
　を斟酌する事
一工人の心得ハ既ヨ前ヨ示くたるを雖も自身ハ商業
　を主とし職工へ注文して作らしめし物品或ハ從來本
　邦各地の名産を買集めて出品せんと欲する者ハ最も
　大切なる心得方あり第一ハ此出品よりして他邦人の
　高評を得後々賈（買）易の道を擴め永久の利德を得んとす
　るとと肝要なり第二ハそれ出品ヨ付て得る處ハ賞牌
　ハ必す其製造人へ授けへき事當然なれとも之を得る
　ヨ尽力すへきハ又出品人本分の務めと云へし如何と
　なれバ其品名譽を得て他邦人の好む處となる（賣捌け）
　方よろしけれハ即ち是を賣露（賣）する者の所（得）職工の得
　る處よりハ最大ひなれハなり第三ハ其品々他邦人の
　（競買）する物となれバ會中ヨて直に製造を注文するも
　の或ひハ永久の取引を約定せんと望む者あるべき事
　なれハ渡航何程まてハ注文を引受て資本に差支な
　き哉を慮と取極め置く（卷）き事にて（尊）ハ其時ホ臨み資
　本融通の道出來する様の手順をも附け置くべしなを
　無く利得而已ヨ貼（點）滅して濟りヨ注文を受込資本に差
　支約定の期限を誤り或ハ（贋）作の手を抜き注文主ホ迷
　惑を懸る時ハ自身而已ならず御（國）商人ハ一（般）如此ヒ
　のと大いふ信用を欠き大（變）べし第四ハ申迄（及）もなき事
　なから（博覽會）ハ決して賣買を專らとする市場ホハあらず手短ホ言へハ新たホ賣
　出す品物ハ向後賣捌方の道を腐むる事斷要なるハ其

見本へ引札を付けて廣め為に得意先きへ配達するが如き心得なるを以てしされバ此會ふてを決して利益を得んとせず實ハ唯遣りても跡の貰れ棚けを仰ぐ位の氣込よて出品しあきものなり去り迚團扇や手拭ハ如き安物而已よてハ決してよろしからず各國へ其名譽を顯ハす様なる高金ハ物をも出すべき事なり但し同し様なる物數品を出すよ及バす吳々も見本を出を心持よて可成丈種類ハ變りたる物を出し觀客ハ目を新たにすべし又其物品ふ附けべき解説ハ即ち引札なれば模様のある物ハ其譯柄よりして保も方用ひ方或ハ何年間耐ハ損せさる迄き保證幾個以上の注文なれバ何割を引く等の事何月間ふ出來上る等能々念を入れ委敷く書顯し之を飜譯して物品毎ふ附る様心掛可し

第百八十六號　午七八、三

第五拾貳號

自今外國へ渡航ノ日本形商船ハ大小ノ別ナク國旗ヲ掲揚可致此旨布告候事

但國旗ノ寸法ハ明治三年正月布告商船規則中三種ノ內小形ノ分ヲ可用事

明治十年七月九日

右大臣岩倉具視

右之通被　仰出候條管內無洩相達者也

明治十年七月十四日

京都府知事槇村正直

甲第壹號

明治六年七月大藏省達地租改正施行規則第四則ニ山間海岸其他ノ宅地他ノ比較無之地價難定分ハ一反ニ付拾錢ヨリ不少稅額ヲ可定ト有之處本年第一號ヲ以地租ハ明治十年ヨリ地價百分ノ貳分五厘ト改定候旨公布相成候ニ付テハ改租ノ際所定之宅地地價百分三ノ稅額十年ヨリ稅率ノ改定ニ依テ壹反拾錢未滿トナルモノト雖モ該地價ニ應スル稅額即チ百分ヲ收入シ改租ノ際壹反拾錢ヲ以稅額ヲ定メタルモノハ十年ヨリ六分ノ一ヲ減シ即チ壹反ニ付八錢三厘收入候儀ト可相心得此旨布達候事

明治十年七月十日

東京府知事　同局四等出仕　安藤就高

地租改正事務局總裁大久保利通代理

右之通達有之候條管内無洩相達者也

明治十年七月十四日

大藏卿大隈重信

京都府知事槇村正直

第百八十八號

皇太后宮
皇后宮　行啓之節　御馬車へ旗章ヲ掲候旨明治六年第百三拾四號ヲ以公布相成居候處自今前驅騎兵ニテ右旗章相掲候條爲心得此旨布達候事

明治十年七月六日

宮内卿徳大寺實則代理
宮内大丞山岡鐵太郎

右之通達有之候條管内無漏相達者也

明治十年七月十六日

京都府知事槇村正直

正誤

當府本年第百七十四號布達

京都裁判所管内支廳區裁判所管轄區分事務權限中

第三項　伏水區裁判所　伏水（第三區）ハ（第四區）ノ誤

第十項　若狹國小濱第二大區（十二小區）ハ

小濱區裁判所　（十四小區）ノ誤

第八號

今般兵庫縣下播磨國神戸港ニ於テ左ノ位置形狀ノ通壹個ノ竿燈ヲ設ケ來ル八月十五日ノ夜ヨリ點燈候條此旨布達候事

明治十年七月十四日

工部卿伊藤博文代理

工部大輔山尾庸三

明治十年西暦千八百七十七年第四號

神戸波止場竿燈

一神戸港外國人居留地東波止場ノ極端ニ於テ竿燈ヲ設ケ明治十年八月十五日西暦千八百七十七年第八月十五日ノ夜ヨリ始ト雖後毎夜日沒ヨリ日出迄點燈ス

一燈竿並ニ家屋ハ白色ニ塗ル

一燈明ハ不動綠色ニシテ全度ヲ照輝ス

一燈竿ハ燈籠ノ中央マテ高サ三十四尺ナリ

一燈火ハ海面ヨリ高サ四十二尺ニシテ其光線凡六里海上ニ達ス

右之通達有之候條管內無漏相達者也

明治十年七月廿一日

京都府知事槇村正直

第百九十號 ㊄二ノ

來ル明治十一年佛國博覽會之事項ニ係ル照會通報及見本品雛形等之郵便規則第四條第三拾貳節ヨリ第三十七節迄ニ照準遞送可相成旨驛遞局より示達方照會有之候付別紙抜萃爲心得管內無洩相達者也

明治十年七月廿一日

京都府知事槇村正直

別紙

郵便規則

第三十二節

一凡ソ勧業上衆ノ利害得失ニ係ル通報或ハ質問應答書及之レニ屬スル冊子繪圖等ヲ勧業寮ト地方官ノ間及勧業寮地方官ト人民ノ間ニ互送スルモノハ上包無之歟上包アルモ開キ封ニテ差出スニ於テハ目方十六匁迄無税遞送ヲ許スベシ若シ拾六匁ヲ踰ルトキハ其過量ノ分ハ書籍定税ノ割合ヲ以其税ヲ可拂事

第三十三節

一右同斷ニ付互送スル種子或ハ見本或ハ試驗品等前節ノ手續ヲ以差出スニ於テハ目方三十貳匁迄無税遞送ヲ許スベシ若シ三拾貳匁ヲ踰ルトキハ其過量ノ分ハ商品見本品ノ税ヲ可拂事

第三十四節

一見本或ハ試驗品等水漿其他爆發猛烈性ニシテ郵便行嚢ヲ損シ且共ニ入アル他ノ書狀等ヲ傷害スヘキ品ハ決シテ差出スヘカラス若シ右様ノモノヲ差出スニ於テハ總テ第百三十三節ニ照シテ處分スヘキ事

但其品物ニ依リ壜或ハ箱或ハ木綿等ノ袋ニ入レ差出スモノハ第六十六節ノ通可心得事

第三十五節

一此郵便物ハ總テ其表面ヘ朱ニテ「勧業事務」ノ文字ヲ記載可致其記載ナキモノハ尋常ノ郵便物トシテ可取扱事

第三十六節

一右ノ内些少タリトモ封物アルニ於テハ悉皆之ヲ差出人

へ差戻シ全書類ノ目方ヲ籠メテ書狀稅ノ二倍ヲ拂ハシムヘキ事

第三十七節

一右書類ノ名宛ハ其官院諸省等ノ長官ノ姓名或ハ官名ヲ以テスヘシ若シ私ノ音信カ、リタル文意有之節ハ其受取人ヨリ書狀先拂ノ例ヲ以テ其稅ヲ拂ハシムヘキ事

但若シ受取人ニテ其稅ヲ拂ハサル節ハ其郵便物ヲ不相渡之ヲ差出人ヘ相戻シ三倍ノ稅ヲ拂ハシムヘキ事

第五拾三號

明治九年一月第三號ヲ以地租徵收期限及布告置候處當明治十年ヨリ耕地ノ內實際ニ就テ田畑ヲ區分シ其他各種ノ地租徵收期限更ニ左ノ通改定候條此旨布告候事

但市街地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ其五分宛ヲ收納スヘシ

明治十年七月十四日

右大臣岩倉具視

各種地租府縣廳へ納期

第一期　明治十年七月一日ヨリ同年八月廿一日限　畑方及宅地山林原野牧場　二分
第二期　該年九月一日ヨリ十月廿一日限　同　五分
第三期　該年十一月一日ヨリ同十二月十五日限　同　三分
第四期　該年十二月一日ヨリ翌年一月廿一日限　田方　五分
第五期　翌年二月一日ヨリ同三月廿一日限　同　三分
第六期　翌四月一日ヨリ同廿一日限　同　二分

右之通被　仰出候條管内無洩相達者也

明治十年七月十九日

京都府知事槇村正直

第百九十二號　午九八三

甲第拾五號

靜岡縣管下伊豆國君澤郡大場村反別三町壹反七畝貳歩
八同國田方郡上澤村へ同村反別三町壹歩八右大場村へ
組替地所交換郡界更正候條此旨布達候事

明治十年七月十一日

内務卿大久保利通代理
内務少輔前島　密

右之通達有之候條管内無洩相達者也

明治十年七月十九日

京都府知事槇村正直

第拾八號

愛知縣下秩祿公債証書紛失ノ旨本年四月十二日甲第拾五號ヲ以テ届出候處同縣下ニ於テ發見候旨届出候條此段布達候事

明治十年七月十四日

大藏卿大隈重信

右之通達有之候條管内無洩相達者也

京都府知事槇村正直

明治十年七月十九日

甲第拾九號

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ愛知縣下第一區名古屋茶屋町三番地ニ設立シタル第十一國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ引換準備金ヲ以テ本月十八日ヨリ試拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利足ト海關税ヲ除クノ外租税其他一切公私ノ取引上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一圓立銀行ニ於テ發行ノ品ト同一ニシテ唯表面銀行ノ名稱地名及頭取支配人ノ名印幷ニ裏面割印ノ異ナルノミニ付別段見本相添ヘサル事